物産雑説

竹類

（乙四之上）

二十

A 00
5764

竹類 甲

東京大学総合図書館

二十
No. 21
物産志第三三號

ブンゴザサ、一名イヨザサ、又タウバザサ、

本草圖譜苞木類竹ノ條ニ曰ブンゴザサ、又フロザサ、竹ノ形ハ「ヲダケ」ニ似テ至テ細ク高五六尺葉ノ形ハ「チマキザサ」ニ似テ短シ此竹ニテ盆、火取、火鉢、又箸等ヲ造ル云々

此竹ハ諸國ニ生殖スル㕝多ク殆ト野生ノ看ヲナセリ東京ニ於テモ堤上林際ニ多ク又籓籬トナシタルアリ密生スルヲ以テ要害ニ宜シ此竹ヲ以テ笊籠等ニ作ル又鳥ノ市ニ鬻ク所ノ芋魁ヲ貫クニ用ユルハ旧来ノ習慣ナリ

相州ニテ「ベニザヽ」ト云フ其筍紅色ナルニヨル

伊豫ニ自生アルヤト池田謙藏ニ問フニ自生トハ思ハレザ

A00
5764
東京帝國大學圖書之印
B 45224
男爵田中美津男氏寄贈
先代田中芳男旧蔵書
昭和七年

レ𪜈澤山ニ繁殖ス伊豫ニテ「タウマチリ」ト云フ鞘麻竹ノ義
カ鞘麻竹園ノ如キトハ軍学ニ於テ繁キコヲ云フ由実ニ此
竹ノ生スル至テ繁密ナリト云フ
町田久成曰薩摩ニテ「メゴサイ」ト云フ霧島山ニアリトゾ麻
児島近辺ニ多クアレ𪜈人家近クノ山ナレハ自生ニハ非ル
ベシ筑後ニテ「クハンノンサイ」ト云モノ同物ナラン是ハ山
ニ澤山アルトノコナレ𪜈未タ実地ヲ見ズ

明治十二年四月八日　田中芳男記

(物産局三三枚字)

雲斑竹　日向産　町田久成献納　三本

大ナル者一本ハ元飫肥領ノ産小ナル者二本ハ霧嶋山大浪ノ池邊ノ産ニシテ此外尚佐土原ノ邊ニモ産スト云鼈甲竹又虎斑竹トモ云フ此竹ハ一種黴様ノ菌ヲ皮上ニ生シ斑ヲ残ス者ニメ其菌初ハ麻粒ノ如ク漸ニ蔓延シテ銭大ノ汚斑ヲ生ス之ヲ磨シ去レハ其痕分明環状ノ斑文ヲ残スコ恰モ横截セル木材ニ輪層アルカ如ク殊ニ其老成セル者ニ至リテハ斑文鮮明ニメ愛玩スヘシ従来支那ヨリ来ル湘妃竹ハ湘妃ノ涙痕ニ

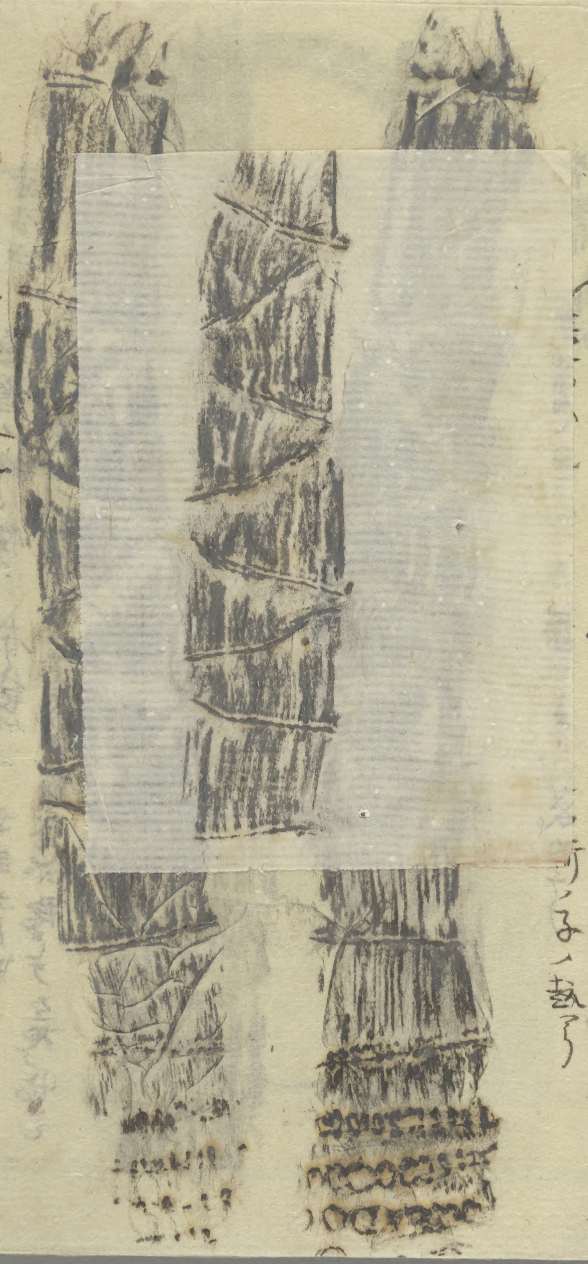
国テ斑ヲ残セル者ナリト云傳ヘテ大ニ之ヲ珍
奇トセリ今此斑竹ハ支那産ト稍異ナリト雖モ
其斑痕ノ原由ヲ知リ初テ舶来湘妃竹モ同シ
黴菌ノ痕ナルコヲ徴セリ

斑竹一名暈竹　苦竹　湘妃竹　湘竹

沙古丹竹

此竹方生時毎點土苔銭封之甚固土人斫竹浸
水用草穣洗出苔銭則紫暈爛斑可愛此真湘中
斑竹也　漢隠居詩話

紙儀板



播羽氏　十二年所作
（佛面竹）
二十年六月　孟宗竹ノ変化ナリ（之ノ例…）其五三抱ノ如キ
…子ノ数ア

右ノ手ノ竹ニ傷ヲ見ヘ…

東京大学総合図書館

丁内資料 東京大学総合図書館

因テ斑ヲ残セル者ナリト云傳ヘテ大ニ之ヲ珍奇トセリ今此斑竹ハ支那産ト稍異ナリト雖モ其斑痕ノ原由ヲ知リ初テ舶来湘妃竹モ同シク黴菌ノ痕ナルコヲ徴セリ

斑竹一名暈竹　苔竹　湘妃竹　湘竹

沙古丹竹

此竹方生時毎點上苔銭封之甚固土人研竹浸水用草穰洗出苔銭則紫暈爛斑可愛此真湘中斑竹也　漢隠居詩話

東京大学総合図書館

宮本氏 筆鴫ノ卿ノ使 布袋竹 二十年十二月貰フ

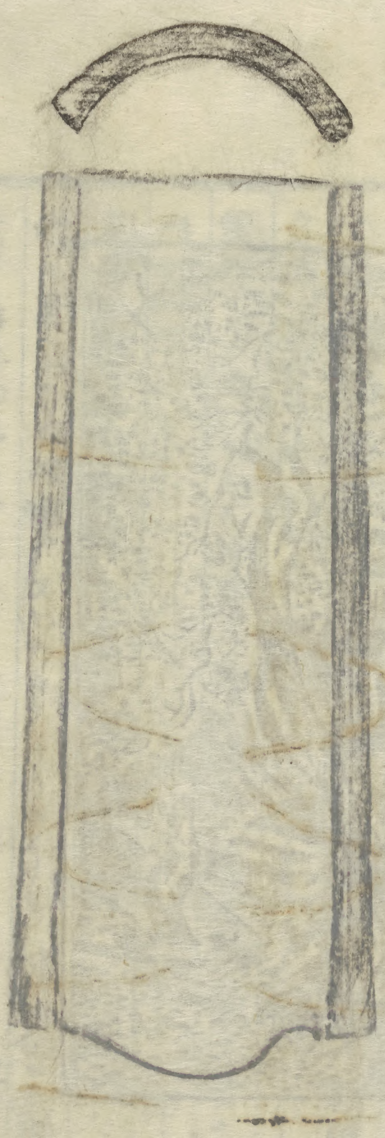
是モ 孟宗竹ノ真竹ナリ 節迫リ方前ノモノニ不劣シテ互形ノ模様

節ノ所ニ膨起ナシニテ節細ク高低ナクシテ互テ移ル形ナリ

右ノ二ツハ竹細工ニ見ヘノニ似テ希ナル者ナリ

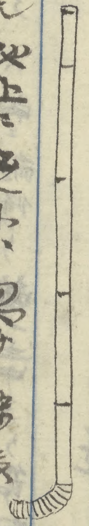
竹製 茶合

十二年四月十四日 上林松寿ノ贈ル所 日人分繁氏ノ作



竹杖

竹ヲ杖ニ作ルハ従来ノ事ナレトモ近年其製大ニ開ケ輸出ノ量モ増スニ至ル尋常使用スルハ淡竹（ハチク）ノ根ヨリ掘起スモノヲ磨キ硝酸ヲ以テ煤色ヲ出スヘタルモノニ彫刻ヲ施スモノナリ又人面竹（ホテイチク）アリ黒竹アリ寒竹アリ此外一種ノ竹アリ杖又傘柄ニモ用ユ形ハ如此



土中ノ節

向島ノ短編ニ地上ニ出ヌ者ハ忽チ修長セリ是地ノ竹ニ異ナル者アリ此竹ハスワウチクナリトシテ博物図ニ載セリ讃岐国白野ノ雲日此竹ハ該地方ニ多シ方言キンチク金竹卵ニ似候ナリ是ヲ目黒金竹ナリ

同前外面ノ彫画

静岡ノ辺垣ニ
植栽千ノ竹アリ
日向ナシ
物産字彙 羽扇柄
トニアリ 回物ナリ

竹ノ薬方リ
界中慶竹ノ種
山十七年
生土アル

又人曰 永田竹
山王ノ辺ノ郎ノ
家 土手上ノ垣ハ
此竹ニアラズ
ヤ
実様ニ見ニ実リ

土佐ノ土用竹ハ大小アリ皆垣ニ用ユ是ノ竹鞭ヲ出サズ人ニ由リ他ヘ
蔓延スル事少キ二ツナリ 其大ナルハ幹径寸ニ近キモ小ナルハ三尺ニ
過キズ 葉短小ニシテ鳳凰竹ノ如シ 幹ノ中ニテ節間近キ所ノ如シ
大坂キン[illegible]チクハ幹ニ紐條アリ 幹ノ中ニテ節間近キ所ト
異ナル事ナシ
福岡チンチク/蓬萊 士族邸ノ垣ニ多シ チクチク竹ト云ヒ 竿ナリ 葉短細ニテ
鳳凰竹ノ如キモノ 鉄居ニテハ大セイノニシテ小ナルモ其竹用ナリ
稍テ土佐ノモノニ異ナル事ナシ 界中慶竹ニ同ジナリ 又福岡ヲ実相ス
モアリ 又曰 同ジ種ヲ倒テ慶竹 筍ヲ食セズ 三河ヨリ多ク出ル 布袋竹ナリ
鉄居ノ大名竹（ダイメウチク）ハ田間ニ小叢ヲナス 其幹ハ橙色ニシテ

鉄居ノモノ
マガリ多
ナリ

紙儀扱

抑リ曰
蔑手ヲ垣ニ
用入竹二至ル
キンチク太キ
筍老ニ食ス
ゴッサンチク小ナリ
筍ヲ食ス
背月十日田慶
ハ根株采ヲ
取中書

紐條アリト義アリト 夏ニ一年 採毛ハ大長セラル是ハ
堂ヲ作リ 又堤防ニ植ヱ 水辺湿地ニ適スルモノナリ
佐賀ニ多クアリ 油揚ノ輪トス 利チクト云リ
鉄砲ノ白竹ハ目今久留米ニ士族授産ノ為メ 赤松社
トテ云フ 此皮ヲ用ヒ草履ノ表ヲ作ル 草履表ハ經
未南部表ト云ヒ 南部ノ屋敷詰小給ノ者ノ内職ト
セシモノナリ 故ニ名アリ 但シ 目今東京ヨリ作ルモ甚厚
ク 鉄居ノ多キ所ト云フ 此白竹皮ハ斑ナキモノニヌ
一種ナリトス 筑肥紀州ノ内ニ云ヒタリ

依望テ八時
カミチニ出ス
鋤ト二千束ヌ
田ト云トイフ
但七大丈竹ヲ
字
如此
曲
いろ
出田氏語

紙儀抜

明
人
色

其長サハ本

依里ミ?ハ時
カミキン？ヘスヘヲ
鞍トニ分ケ未ヲ
ヲ用セストスヘシ
但シ大丈竹ヲ
以テ
如此
無之
ハ如シ
池田氏語

書写作

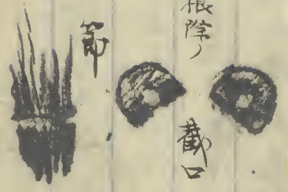
廣田男ノ考モ評ス
穂ハ庭ニ数十
二丈ヲ発見モ多クハ山高氏
ナリ白評モ池田モ未
川氏モ其一活ヲ聞キテ
創テ知ヘキナリ

校

金山竹

明治十三年大隅肝属郡ノ山ケ野金山ニテ始メテ発見ス故ニ金山竹
ノ名アリ目今近隣ノ諸山往々之ヲ生セリ是隈篠（クマザサ）ノ一種紫斑
色尤モノ甚長堅硬ニ甚肉厚リ後志国又古丹山ニ産スルモノト
頗相似テ其枝條ノ却テ本竿ヨリ長キヲ異ニスルノミ之ヲ用テ
諸文房具ヲ製スルニ或ハ風韻ニ乏シト然モ農具以来ヲ竹
細工管等ノ製ニ然ル故ニ専ラ適セリ 文字ハ寸ヲタシカヘミテ山ヲタシハ専ラ云フ事ナリ
右ハ今年二月鹿児島県白野某氏ノ持来ル竹ノ解説ニテノ書
物ヨリ天産ニ出セリ子投セシ旨セリ今右解説ヲ天産ヨリ借リ
写シ了ナリ　又該竹二本ハ白野氏ノ自ラ之ヲ贈ラレタリ
甚長サハ本

ハ切去リ根際ヨリ縷ゝ切タルモノ十七尺 長七尺余アリ 節間猶リ密ナリ
モハ本トス 枝ノ太サ本竿ヲ超ヘアリ 斑ハ稈ヲ根ハ却テ多ニ着キ他ハ
乏シ 故ニ本邦人ニ伝ヒ 斑ハ甚斑ハ 暗褐ニシテ跡ト黒キヲ異ヲ為セ
竿ヨリ濃淡ヲ殊ニス 淡キアリ 斑ノ模様ハ 地所ニ種々竹ノ
似タリ 又竿モ似タリ



十七年五月十六日

田中芳男記

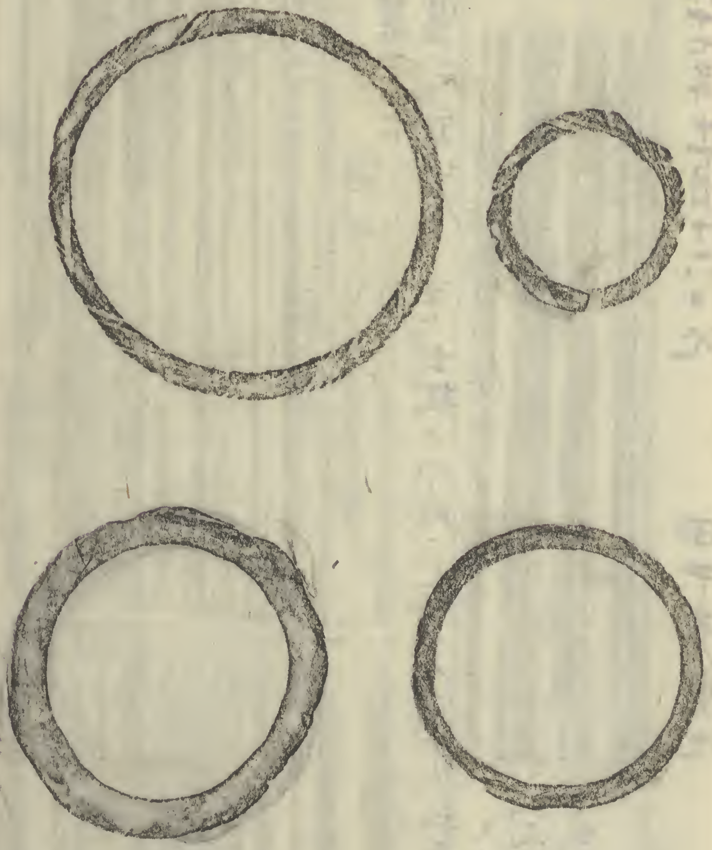
紙 餞 抜

淡路 洲本

皺竹（シボチク）

十七年五月同

玉ヲ以テ得タルモノハ大サ



竹ノ話　静岡縣下 駿河志太郡谷稲葉村 伴久馬野手沢ノ稿

一 ホウライチク　山野ニナシ 人家ノ籬トナス 太キ枝ヲ抽ヅ
如シ 枝除キテ 筍モ生ジテ 竹藪ナシ

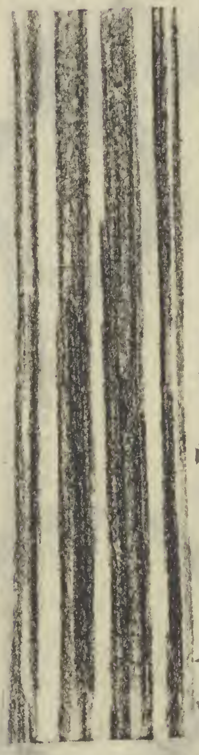
一 ダイメウチク　前者ニ似テ大ナリ 垣トス 是亦竹藪ナシ
園生ナリ　コンデラ大事トス

一 カンサンチク　園ニ植ユ

一 カザハラダケ　ヤキツバザニ 太シ　筆ノ節ヤテ用ウ

一 ヤダケ

一 ランナダケ　箱根竹ノナリ　烟管ニ 火矩トス
又 麦束ノ垣トス



洲本ノ城山麓ニアリシハ
藩ノ時保護アレバ余ガ切尽スニ至ル 士族ノ邸内ニアルモノ今尚アリ 然レ多クハ モノナラズ 又次第ニ 減ズベシ

明治十七年十一月十六日記　田中芳男記

一 箱根竹ヲ 箱根竹ト呼ハ之ノ 三島手箱ニ作ル
甚之アリ
一 苦竹ノ種ハ 東京ノ呉竹 長ノ枝ケ丘 静岡地方ノ呉竹
広クシテ短シ 苦竹囲尺余ノ分ノ今為多シ

十七年十一月記

田中芳男

静岡縣 蓬萊竹
解説書

十七年十一月之分 静岡縣ヨリ答ヘシ

名称 俗ニ蓬萊竹ト云フ
来歴 二三百年前駿河ニ生シ来歴不詳
植ル地方 多ク砂地ニ限ル
竹ノ性質 途中ヨリ下ヘ向テ枝ヲ振ル
竿ノ長サ太サ 長ニ三間位迄 太サ三寸廻リ位
筍ノ出ル時 春夏秋冬四季ニ生ス
需用 邸宅ノ垣又ハ掛竿ニ用ユ

駿河有渡郡久能邊ニテ藩籬ニ植ヘタル所ノ竹
方言ハマダケ

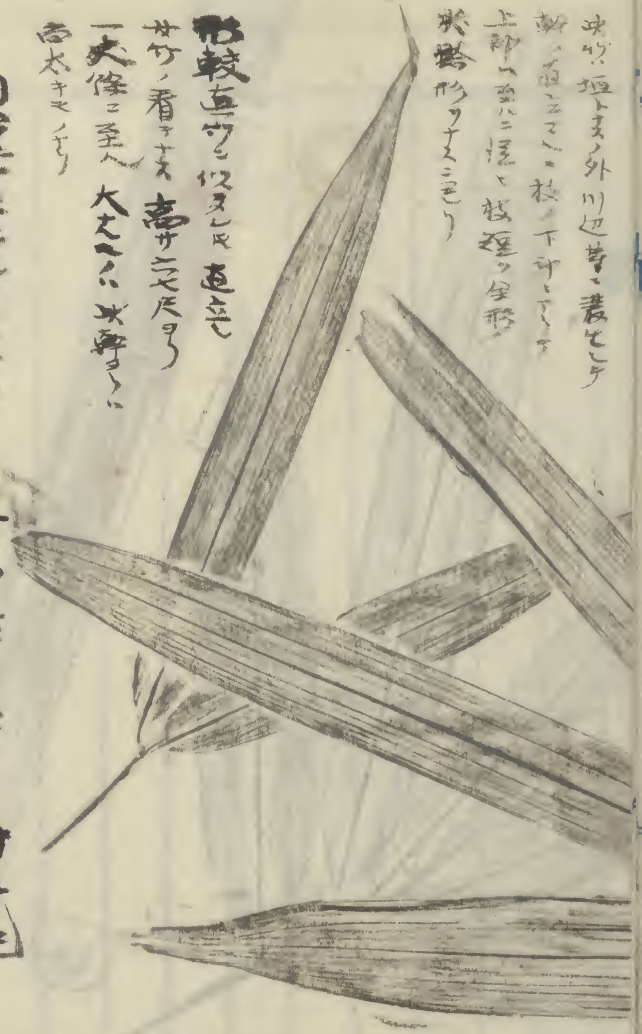
汎機校

仁多郡村
土用竹
図產之表

完

此竹ハ垣ト其外川辺等ニ栽セシケ
節ノ間二三ハ枝ノ下部トナシテ
上部ハ数ニ揺ニ枝垣ノ全
勢形ツナスニ至リ

此枝直竹ヲ似タレ氏直立シ
此竹ノ看ナキ高サ二丈尺ヨリ
一丈余ニ至ル大ナルハ此竹ヨリハ
西太キモノアリ



明治二十三年一月十四日

鹿原郡奥津ニ於テ

田芳 記

土佐産土用竹之事

土用竹ニ二種アリ一ハ竿枝
葉共ニ大ニシテ葉多カラス
其最大ノモノハ五寸囲以上
ニ及フモノアリ藩政中ニ在
リテハ火縄ニ製スル為メ特
ニ栽培セシヿアリ即チ当時
国老伊賀氏幡多郡宿毛ノ采

邑ニ植エシモノハ甚タ大ナルモノ有リシト云フ現ニ幡多郡伊與喜村間崎某ノ籬援及ヒ高岡郡久禮村大川々ニ沿フ字升屋地及ヒ吾川郡弘岡中ノ村字横手等ニハ其長弐丈弱其囲六寸許ニシテ毎節間弐尺ニ近キモノアリ執

レノ土地ニモ容易ニ繁殖スト雖モ力メテ其大ナルモノヲ養植セント欲セハ乾燥ノ地ヨリハ較ヤ蔭地ヘシテ湿気多キ所ヲ以テ毎当トナスニ似タリ一ハ竿枝葉共ニ小ニシテ葉較ヤ密且綿紗状ヲ呈シテ美観ナリ最モ籬援ニ

用ウ此ノ種ハ幡多郡中村近
方ニテハ真如竹ト呼ヒ高岡
郡久禮村ニテハ春陽竹ト云
ヒ同郡高岡村ニテハ垣笹ト
称フルコアリト雖モ普通ノ
称ニ非サルナリ惟フニ其大
ナルモノハ土味ニ適シ生育
自在ナラシメハ強テ肥培セ

スト雖モ大竿トナリ之レニ
反シテ地位充分ナラス且離
笹トナシ數百株叢生シ其古
竿ヲ除洗セス遲類ニテ結紮
シ時々其上部及ヒ側辺ヲ剪
去スルトキハ較ヤ小竿ヲ生ス
然レドモ其葉疎ニシテ其竿密
葉巻縮ノ小竿ニハ類セス到

矮縮稠密葉ノ種ハ好土地
ニ放生スルモ大竿ヲ生スル
ニハ至ラサルナリ上陳ノ如
クナルヲ以テ俄ニ土用竹ヲ
見ルトキハ三種アルニ似タリ
ト雖大別セハ大小ノ二種ニ
過キサルモノヽ如シ又別ニ
縞竹ト称スルモノアリ此レ

ハ竿枝葉共ニ大土用竹ニ異
ナルコトナシ独毎竿青縦線黄
縦線アルヲ以テ特ニ縞竹ノ
称アリ蓋大土用竹ノ変生ナ
ルヘシ高岡郡久礼村長沢川
ニ沿フ堤塘字大新改ニ一藪
ヲナセリ箇ハ竿上黄色部居
多クシテ縦青線アリ此ノ種

ハ其近村安和ニモ在ルアリ先般三本廻呈セシモノ即是ナリ其色部多クシテ黄縦線ヲナスモノハ高岡村字吹越ナル田原亀之助ノ籬園ニアリ總テ此類ハ稍ヤ美観アルヲ以テ杖節或ハ傘柄等ニ用ウレハ可ナルヘシト雖モ其

屈曲ヲ矯正セシト欲セハ節部折レ易ク且乾燥スル時ハ青黄縦線薄消シ或ハ萎縮スルヿアリト云フ在神戸洋人ハ草竹ナルヲ以テ需用ノ道ナシト断言セシヿアリキ然𪜈其光澤ヲ変スルト萎縮スルト節折ノ容易トヲ防ク方

毎キニモ渉ナルヘキカ概スルニ其効用ニ於テハ籠籃ヲ作リ火縄ヲ製シ藩籬トナシ樹木ノ依柱トナシ細長竿トナシ團扇モ造リ得ヘリ紙ヲモ製スヘシ尚ホ其他緊要ノ需用ナカルヘキヤ供給ハ實ニ易ヘタリ方俗火管ニ充用

スルヿ多シ箇ハ是節間ノ長併ナルニ職由セスシテ是レヲ用ウレ𪜈ハ火災ニ罹ルヿナシト傳言ニ基因セリ果メ然ルカ否ヲ知ラスト雖籬笆トセハ近隣舞馬アルモ延焼スルヿ鮮ナシト是或ハ然ラン類聚土佐故事巻ノ八ニ土

用竹ノ記ヿ今一字ヲ変セハ登載ス土用竹或書云當国人家所栽者似雖竹而性弱毎土用繁生故為名矣亦此種有大小異大者用竿擇或作籬笆有為好小者栽之為籬殊細葉者最佳也傳謂文禄年中長宗我部元親選自朝鮮国之時採来之栽於浦戸城邊云又云京師南禅寺塔頭之中有謂鳳凰竹者而来自朝鮮之乃同種也又西山遺事所謂水戸家武江駒込御第有謂欽明竹自然生者是亦其類歟云由リテ惟フニ駿河地方ニ往々籬笆トナセル鳳凰竹ト称フルモノハ所

謂土用竹ナルヘシ

写

明治十八年五月七日

第一回山林物産
品評會出品
江南竹觧説書

三重縣北牟婁郡尾鷲南浦
會員
出品人 土井幹丈

江南竹傳来移植ノ事蹟并沿革總説

紀伊國北牟婁郡尾鷲浦ニ江南竹ヲ栽植セシ事蹟ノ一班ヲ茲ニ記サンニ予カ祖先土井嘉八郎ナルモノ今ヲ距ルヿ百十余年前ニアリテ諸種ノ植樹ヲ勉ル中農産物ノ最モ有益ナル植物ニシテ著シク其利ヲ見ルモノハ竹ニ如クモノナシ考ヘ若干ノ山地ヲ撰擇シテ之ヲ栽植セリ蓋シ我村中傳来シテ移植セシ植物中他境ヨリ輸入シ或ハ舶来ノモノ少ナシトセス然レ氏之カ年月詳カナラサルモノ多シ此江南竹ハ宝暦年度予カ祖先嘉八郎ナルモノ薩摩地方ヨリ我村ヘ輸入シテ栽植セシ之ヲ嚆矢トス（州際藩ノ保庇ヲ仰キテ輸入ノ手續ヲナセントス云フ）銀竹ハ安永年度ニ之ヲ栽ニ始ナ江

南竹ヲ栽培セント欲スルヤ宜ク該竹ニ適スルノ地ヲ擇ミシト
云抑江南竹ナルモノハ其性温暖ナル氣ヲ好ミ肥良ノ壌或
ハ眞赤土ニシテ砂礫少ナキ地ニ繁殖スル故ニ當時尾鷲浦字岩
ニ谷ニテ其地東西南ニ小山アリテ四圍松柏杉鬱蓊トシ屏ヲ立ルカ
如ク自然防風林トナリ上層黒壌土ニシテ直赤土ノ質ニシテ氣
候頗ル温暖ナル地ヲ擇ミ江南竹ヲ栽エ之ヲ叢地トセシト云フ
蓋シ竹林ナルモノハ夏季軟竹ノ際不慮ノ暴風ニ遭遇スル
トキハ忽チ吹折ノ害ニ罹レルノ患ヲ慮リテ此適地ヲトシ栽植セ
シト云フ爾来年毎ニ蕃殖セシヲ以テ安永年度ヨリ寛政年
度ニ至ル迄大和國吉野郡古川村私有地並ニ同郡中字龍ノ

月五月ノ頃大筍ヲ盛ンニ産ス其際竹林中ヲ散歩スルニハ
注意セザルヘカラズ殊ニ筍ニ手ヲ觸ルヽトキハ成長ニ害ア
リ軟竹ヲ護スルモ又然リ筍ノ生育上ノ如何ヲ検スルニハ早旦竹
林ヲ熟スレハ筍ノ頂尖ニ朝露ヲ止ケタルハ良好ノモノニシテ露
ヲ止ケザルモノハ生育セスシテ腐敗ニ属ス野猪鹿兎ハ筍ノ害
獸ナリ須ク妨禦セザルヘカラズ予カ地方ニテハ竹林外部ニ生
ヘタル生竹ヲカラ抗ニ充テ粗朶ヲ芟リ採リ高サ五尺余ノ墻
壁ヲ結ヒ外ヨリ毫モ竹林ヲ窺ヒ得ラザレシヲ要ス少シク空隙
ヲ存スルトキハ忽チ野猪突入シテ一夜ニ悉ク喰ルヽヿア
リ

施肥方法并移植法　竹林ノ施肥ハ小寒ノ頃ヨリ雨水ノ候近キニ麁肥ヲ施肥トシ又陽暦九十月ノ頃ニ竿ヲ洗伐シテ後竹根ヲ蕃衍セシムルカ為刈草ニ動物腐汁及糞汁ヲ注キテ堆肥ヲ製シ或ハ麁肥ヲ施シ勉メテ土壌ヲ肥沃タラシメハ特ニ肥大ノ巨筍ヲ抽クモノナリ殊ニ筍ヲ茎ヲ啖フニ太タ歯ニ脆クシテ其味ノ土ナルヿ尋常ノ種ニ幾倍ヲ加フルベシ竹ノ移植ハ古来陰暦五月中旬ヲ良季節トスルノ習慣ナレ氏竹根ノ蕃衍セシメ數竿連續シテ堀採シテ移植スレハ四時倶ニ移植シテ枯死ヲ見ルヿナシ移植ハ地ヲ餘リ深カラス堀リ少シク施肥シ後時々水ヲ注キテ濕潤ナラシムルニ意ヲ用ユベシ又竹林中ニ松樹杉

樹モアレハ竹幹直立舒暢シ頗ブル見ルベキ長大ノ良竿ヲ得ベシ且樹木ノ計潤ヲ論セス之ヲ竹林中ニ存置スレハ自然落葉壓葉壓積シテ腐朽シ沃土ニ化シテ天然ノ好肥トナレハナリ

因ニ云フ耕地ト竹林トノ近接シタル地ニアリテ稍ヤモスレハ竹根蕃衍シテ耕耙ノ妨ケトナルコトアリ為ニ竹根ノ蔓延ヲ防カンニハ海帯ヲ煮熟シテ其汁ヲ充分其境界タル地ヘ之ヲ澆クトキハ竹根ノ伸暢ヲ断ツト云フ又竹根ヲ蕃衍ナラシメント欲スル片ハ牛馬及他ノ獸類ノ斃死セルモノ或ハ鳥獸ノ腸等ヲ繁殖セシメントスル地ヘ之ヲ埋ムルトキハ忽チ大ニ竹根ノ蔓延ヲ促スナリ之予カ多年実地ニ試ミル所ナリ

又一説ニ馬ノ爪ノ削リ屑ヲ集メテ移植ノ際根ノ下ニ之ヲ
施ストキハ之又繁茂ストス云フ

枝葉ノ用法　枝ハ秋季ノ伐採ノ際注意シテ拾ヒ置ケハ葉ハ
悉ク脱落ス之ヲ肥料ト為テ枝ハ貯ヘ置テ農産物豌豆サヽゲ
ノ如キ逐次長茂蔓延シテ糾繆スル植物ヲ育養スル為ニ
利用スベク又農家藩籬ニモ用ユベシ葉ハ前ニモ言ヘルカ如ク
冬季耕耘ノ節苗代ニ充ツベキ田地ニ竹葉ヲ撒布シ腐朽サセ
置クトキハ効現アリト云フ之故佐藤信淵翁ノ著シタル耕種法
ニ見ヘ予カ近年該法ヲ試ミシニ効現アリキ

地質ニ因リ竹幹ノ良否　第一　土質深黒赤土ニ生育シタル竹ノ性
質ハ外部ハ緑色ニ微シク赤黄色ヲ現シテ白粉ノ如キモノヲアル
ヲ見ル内部モ又赤黄色アリテ肉中モ然リ俗ニ之ヲヘツリマウイ也ト
云之ヲ製造品ニ用ユルハ割シヨク又節ノ際脆カラズシテ且硬
軟宜シキヲ得テ光澤アリ且竹ノ性緻密ニシテ太タ器具用ニ
適シ需用廣シ

第二　土質黒壤土ニ生育シタル竹ノ性ハ外部深緑色ニ白
粉ヲ現シ内部ハ無ク色白シト雖ドモ微シク黄色ヲ帯ヘルカ如ク
竹ノ性ネハイアリト雖ドモ質緻密ナラズ赤土地ニ生育セシ竹
ニ亞ク名用ニ需用アリ

第三　土質砂交リニシテ稍高燥ナル地ニ生育シタル竹ノ性ハ外

部ニ至リ深緑色ニ変シテ黒ニ至リテ白粉ナリ内部ニ至リ色白ク光
澤ナリ竹質太タ脆クシテ堅靭ナラズ竹ニシマリナク割ル片
節ノ際ヨリ折レ籃其他有用器具ヲ製スルニ需用太タ少
シ蓋シ職工ノ各器ヲ製スルニ適セザルニ困ルナラン砂交リノ
土質ニシテ濕地ニ生育シタル竹ハ殊ニ各用ニ適シカタクシテ
需用殊ニ少シ
第四 凡ソ常ニ強キ地ニ生育セシ竹ノ性質ハ節ノ際モロク需
用ニ適セストニ云フ

第十四山林物産品評會出品解説

三重縣紀伊國北牟婁郡尾鷲南浦八十番
大日本山林會特別會員 出品人 土井幹夫

一 出品物名 江南竹
惣丈四丈五尺 中央廻リ一尺四寸 土際ヨリ末ノ廻リ迄叉
三尺九寸 土際廻リ二尺三寸二分 末ノ廻リ九寸

産地并土質 三重縣下紀伊國北牟婁郡尾鷲中井浦字鴌ノ岩同泉尾鷲南浦
字小原野右箇所ノ土質ハ上層黒壌土ニシテ下層ハ真赤土ナ
リ此地算子卑濕ノ溪谷或ハ傾斜ノ地モアリ

時候ノ寒暖 極暑ハ九十二度ニシテ極寒ハ二十五度ニ至ル

培養保護 竹林伐採法ノ要ハ陽暦九月十日頃ヨリ良季節
トシ三年以上ヲ經タル古竹ヲ洗伐スルヲ慣法トス竹林ノ

東京大学総合図書館

伐採ハ小竹ヲ伐除シ大竹ヲ存置スベシ然ルトキハ益〻大竹林トナリテ繁茂スルモノナリ故ニ竹林内ニハ其生年ノ支干ヲ記シ置キ善ク之ヲ保護スルトキハ竹林次第ニ繁茂スルヤ必セリ又伐採スベカラザルノ季ハ啓蟄ノ候ヨリ立秋頃迄トス此間伐採シタルモノハ蠹蝕ノ害ニ罹リ多クハ用ヲナサズ伐採スルニハ手斧ニテ伐採スルヲ好シトス鋸ヲ以テ伐採スルハ甚悪シ手斧ヲ以テ伐採スルヲ慣法トス其伐株ハ直ニ斧ヲ以テ破砕シ其舊根ノ腐朽ヲ促スベシ古竹ヲ残ストキハ筍ノ生出ヲ減シ大ニ林相ノ衰廢ヲ招クコトアリ予カ家紅南竹林ニハ陽暦十二月上旬頃ヨリ稍ヤ筍芽ヲ抽キ四

谷（右両所ハ我尾鷲南浦ヨリ行程凡五里余マリ）紀伊国南牟婁郡大又村（尾鷲南ヨリ六里余マリ）成郡行野浦字字白濱本郡南浦字小扇野三浦和泉右ホノ私有地ノ内點在六ケ所ハ之ヲ繁殖セシメタリ以上記シタル所ノ江南竹漸ク蕃殖シテ現今稱直蘊華トシテ江南竹一尺以上ノモノ三千二百有余本アリテ其最モ舒長スルモノヲ江南竹トシ巨大ナルハ幹圍尤大ナルモノニシテ二尺九寸位節長殆ニト十五間ニ及ヒ（六尺間ナリ）枝下五六間アリ且破軟宜シキヲ得テ各用藏ヲ自由ニ製造セラルヽヲ得タリ之ニ亜クモノハ苦竹ニシテ幹圍一尺三寸位ノ竹ヲ多ク産ス淡竹モ又八寸乃ヨリ尺位ノ竹ヲ産セリ右ノ二種何レモ竹籃類桶籠ホノ需用ニ欠クヘカラ

サルノ要品タリ銀竹ハ安永年度ノ移植ニシテ殊ニ温暖ノ気
候ヲ好ム韓國ニテ往ニシテ長三間許ニ過キス此竹ハ其根ヲ蔓
延セス舊幹ニ接近シテ筍ヲ生ス故ニ藩籬又ハ河堤等ノ土壌
ヲ凝固スヘキ所栽スレハ頗ル要品タリ予カ家ニ於テハ之ヲ
製シテ舊時和銃ノ火縄ヲ造リ柑類有害ノ鳥類ヲ捕獲
スルニ用ヒタリ又右銀竹ヲ製シテ舩ノ索縄ヲ製セシコトアリ
該竹類專ラ蕃殖セシヨリ我祖先米穀布帛ノ利ニ亞クモ
ノハ竹ナルコヲ説キテ江南竹ノ栽培ヲ勸誘シ竹根ヲ分與シテ
之ヲ植ヘシメ我村中ニ於テ著シク蕃殖セリ之該竹根ヲ分
與セシコト枚擧ニ遑アラサルナリ不肖幹丈ニ至リ金竹及方

竹大明竹烏竹呉竹等ヲ各地ヨリ輸入シテ當時専ラ蕃殖セリ江
南竹ニ至リテハ當今大ニ他邦ノ佳評ヲ得テ販路大ニ開ケ我
村ノ輸出ノ一品トナルニ至レリ江南竹ノ我村ニ多ク産スルハ之
祖先嘉八郎ノ賜ナリト云フヘシ過ル明治十一年三重縣ノ内物
産博覧會ヘ出品シテ褒状ヲ附與セラル同十三年本縣下
御巡幸御用ヲ果リモ該江南竹縣令ニ因リ
叡覧ニ供セラルヽノ幸ヲ得タリ曩祖榛莽ヲ開拓シテ江南
竹ノ移植ヲ企圖シ其功成リテ現今該竹ヲ産出セシムルニ至リ
シ苦心ノ勞ヲ發揚シ無上ノ光榮ヲ忝クシタリシト云爾

三重縣下紀伊國北牟婁郡尾鷲南浦
大日本山林會特別會員

明治十八年五月七日　土井靜文

明治十一年縣内物産博覧會

褒状寫

紀伊國北牟婁郡尾鷲南浦

土井八郎兵衛

孟宗竹

江南竹ハ筍ヲ以テ食料トナスニ過キサルモノ多シ該品ノ如キハ絶大良好以テ各種ノ用器ヲ作ルベシ其地特産ヲ有スルモ蓋培養力ニ因ラサラン

右其係ノ品評ニ依リ之ヲ褒賞ス

博覧會品評係

明治十一年十一月

三重縣印

褒賞状寫

北牟婁郡共進會参考出品

五等

北牟婁郡尾鷲南浦

一　苦竹
孟宗竹

土井八郎兵衛

東京大学総合図書館

多年竹林培養ニ注意シ而メ良筍ヲ出ス
依テ之ヲ賞ス

明治廿年三月二十日

北牟婁郡共進會

凧儀板

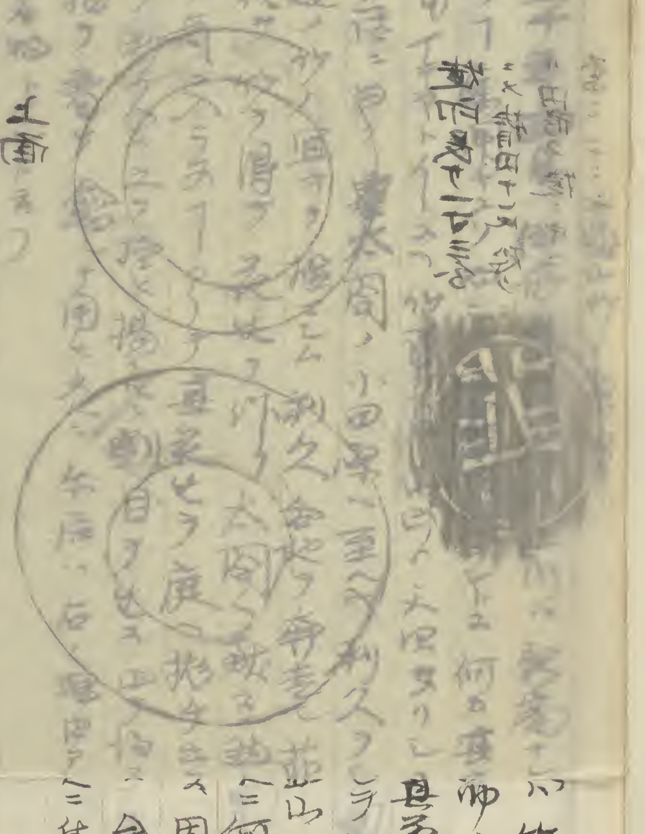
今村先生一日
岸八[illegible]
[illegible]ヲ用キ[illegible]
ヲニ用ヒニヨ
為ヨシト

江川氏ノ蔵ニ
一反有住タリ
[illegible]大ニ[illegible]
今ハ良金ノ[illegible]
[illegible]
年[illegible]

韮山竹

（一換ヲ縮ハ 今村先人 [illegible] 竹田氏）

伊豆ノ韮山ナル江川氏ノ邸内ニアル苦竹（マダケ）ニシテ曽テ江川氏ヨリ切出スニ其数多カラズト雖モ[illegible]堅密強靱ノ名アリ 今岡両角寛氏同行ノ戸塚氏ハ態々其竹ヲ検究ノ為メ昨日同地ヘ赴ヒ生竹ヲ得テ帰ラレタリ其節ノ太サノ囲リ七寸五分目曲ノ七寸[illegible]分位節間ノ長サ明ハ一尺三寸アリ一箆ニテハ矢ノミ[illegible]久人揃ニハ[illegible]（一ヶ也）ハ以業刀剣ノ目釘ニ貴重スヘカラ[illegible]一トシ 茶器又花瓶トナシ大ニ賞セラレシト言フ 旅宿冨士屋主人ノ語ニ曽テ 高島秋帆先生ノ方ニ至



之次目釘ニ孔一ナリトノ說ヲ聞キシコアリ今茨竹
ヲ以テ作リタル花瓶アリトテ云フ借リテ見ルニ鍛錬掛花
生ナリ尤モ甚上下面ニ竹皮ニ捺シタル燒印
ヲ押テ之ニ附ス但シ蓋山ノ山ノ字前書ニハ全ク明
ニ摺リ取レ又ノ之下面ヲ精視スルニハ鐵鉾ノ切口ノ斑点ヲ
斜ニ数ヘ六一行アラノ又此花生ノ裏面ニハ朱漆ニテ
大ハラ宝風ノ字アリ竹ノ外面手カニテ堅実ヘ
見ヘタリ但シ他竹ノ比較ナキニヘ甚詳ヲ述ヘガタシ
（片山直人曰此竹ノ鑑定ハ予一個内情鑑定ニ出ツ）
明治十九年十一月廿三日 [illegible] 田中芳男記

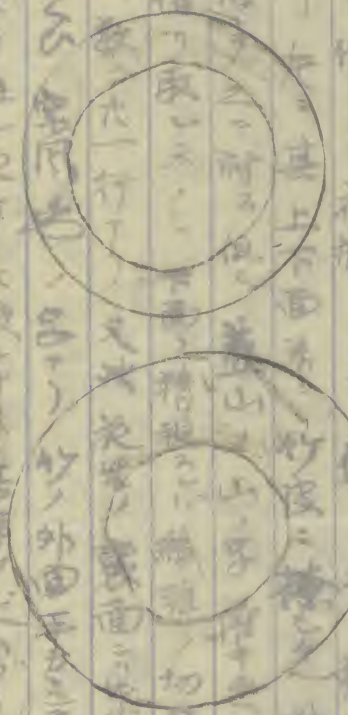
藍山竹ノ上ニ二字ヲ刻ス

大野竹ノ模写ニ拠ル

藍山竹天大ニ
圓一尺三寸程

花生ノ上下面ヲ拓ス 鐫長一尺一寸三分アリ

上面



下面

陸印長サ一寸二分
二メ楕円十二ヒ程リ
〃田形ヲ陸ノ中ニ

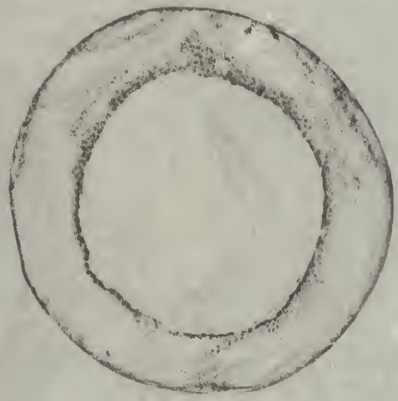
伏竹
掛花
印
〃明
斑点
…手
医家、

田中芳男記

韮山竹ノ花生

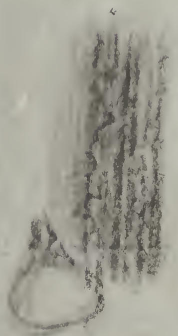
大磯町ノ錺屋所持

下部ノ断面



堤面

字与ノ銘アリ



明治廿七年七月六日　田安記

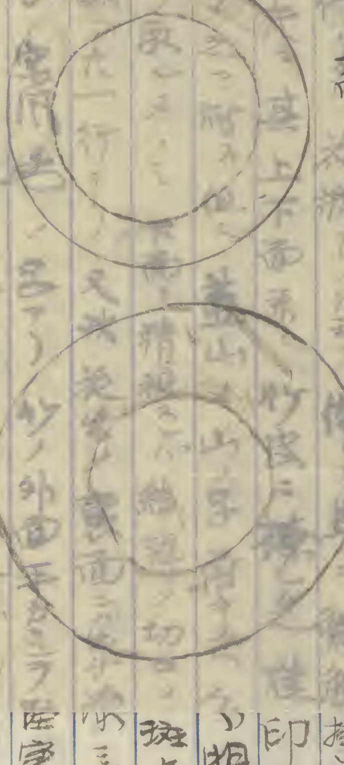
挿入資料　東京大学総合図書館

茶山竹ハ天下ノ
国一尺三寸
而モテ切リ
燧印ノ
名物ナル
利休ノ作ニテ
勝ヲ
且

花生ノ上下面ヲ摸ス 總長一尺三寸三分アリ

上面

下面



伏竹
掛花
印
小明
斑点ア
シ手
医実ハ

燧印長サ一寸三分 ニメ楕円十二ニ形リ
田形ヲ燧リ付ニ
蛋ここナラン

田中芳男記

茶山竹ノ傳支

二十年四月 此冊是照見ヨ 江川ハ記庵ト云竹
ノイ屋阿ナリ 而ニテ繁殖ヲ図ラントユ 何カ其所ノ
菊ゴチヤトイヘル 竹薮ヲ所山田ノ 又四郎ヨリ 其弟
ノ語ニ日ク 豊太閤ノ小田原ヘ至ルヤ 利久ヲシテ此
処ノ竹ノ宜キヲ撰マシム 利久今地ヲ検査シ 茶山ニ
於テ竹ヲ得テ 花生ヲ作リ 太閤ヘ献ス 然ルニ何
カ気ニ入ラヌ事アリテ 甚忿セラ庭ヘ投チ去ス 因
テ利久人ヲシテ之ヲ拾ヒ 揚ケシニ 割目アリセス 止ヲ得ス 全
物ヲ書ケ 愈ニ用ヒ 又人ニ示シ 右ノ理由ヲ人ニ告ケ
名物トナレリト云フ

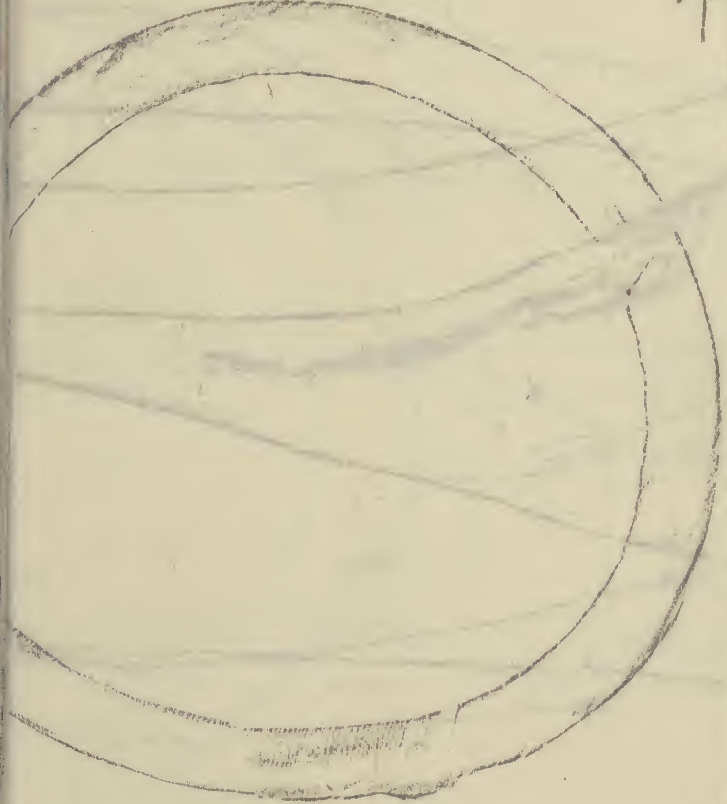
二十年四月四日

田中芳記

天竹黄

筆記巻之百　意記即根本大臣ニ裏ス西テ　伊八
トミフ康熙品ヲ来ル　康熙亀地方ノ土産ナリ竹ヲ煮ルニ名
アリ　町田久成君其店ニ来テ孟宗竹ノ雨ヲ下ヨリ三尺
許ノ所ニ布袋竹ノ如ク二節合シ所アリ　但シ其上下ハ
通常ニ異ナルコナシト　之ヲ模写シテ上下ヲ切リ取ルニ下切
ノ節間ニ一種ノ天竹黄ヲ見ル　而シテ其上切ノ節ハ中
央凸ク歟シテ其上ノ節ニ着ク　其歟シ之ハ液ヲ満ル
汁ガ節間ニ満ツ乾キテ扁平卵殻ノ如クナシリ尤モ
且液ノ様ニシ黄色砂糖状ノモノ固着ス　是ガ真ノ天

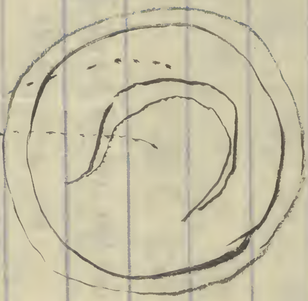
上部



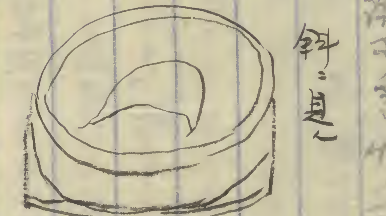
竹[illegible]ナリノ　十九年十月十七　田[illegible]芳記

十月十七　町田氏ニテ深井ノ忠作ノ物ヲ写ス

逆ニシテ上ヨリ見ル



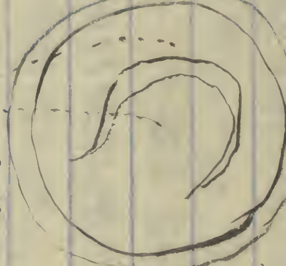
逆ニシテ斜ニ見ル



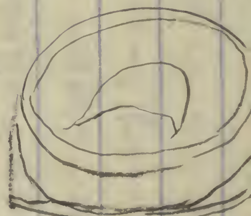
下部ノ節大分上部ノ節ニ着ク其割レ目ヨリ

液流レ痕アリ

下部



下部ノ節大呼上中ノ節ニ着ク此割レ目ヨリ
液流レ出タリ

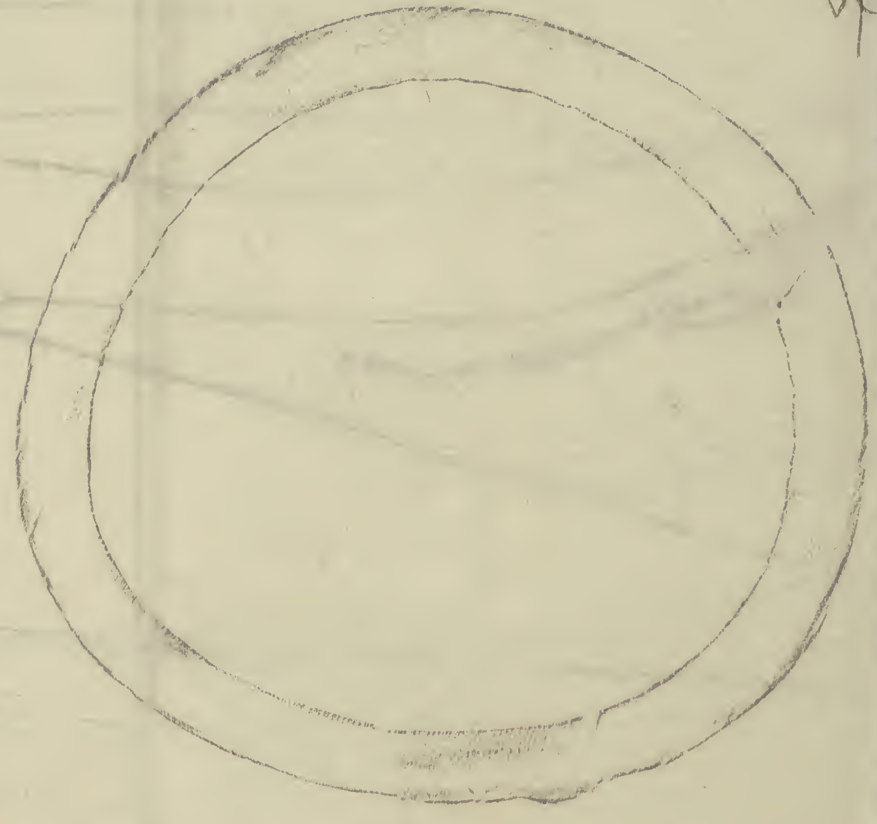


東京大学総合図書館

タケミソ　天竹黄 Tabasheer 英華字典 英華韻府

ウエブストル字書曰 Tabasheer ハ百爾西亜語ニシテ素ト Tabashir 白堊ト云フ語ヨリ轉シ来ル名ナリ　此物竹ノ節間ニ生ズル凝結物ニノ大抵純粋ナル玻石ヨリ成ル東印度ニ於テハ之ヲ藥剤ニ供シテ價甚貴リ膽液性ノ嘔吐血痢痔疾其

上部



東京大学総合図書館

東京本郷區金助町七十二番地

本郷 金助町

金助町
田中芳男様
親展

ノ品ニメ所慶人大ニ賞誉シ西洋人モ前之ヲ称

有名

金助町
田中芳男様
親披

挿入資料 東京大学総合図書館

北海道膽振国
白老郡白老村
則武陳[illegible]

農[illegible]系竹案ノ丁号
[illegible] 竹案ノ丁四合

挿入資料　東京大学総合図書館

試験ニ内地ヨリ松梅等ヲ移植試ミ候処内地ノ一年ト当地ノ三年

寒気甚敷相成候処益御清寧康健為国家

但シ此例ト申ス事ニ御座候テ桃モ藤付キ候テ当地本年七月咲キ申シ

奉謹賀候 然ニ当地以来[illegible]降雨ノ為メ野性壮健ニシテ豊年

暴風雨ニ逢ヒ候ハ十勝川破堤致シ水大ニテ砂泥五六寸平均ニ積リ来

農業[illegible]ニ相成リ農家ニテ耕耘不如意免角

其ノ大概埋没致シ候ニ付[illegible]五本バカリ助カリ申シ[illegible]君

時機ヲ失スルヲ不顧 殊ニ当年ハ[illegible]実[illegible]

ヨリ[illegible]村ノ種ヲ贈リモラヒ[illegible]同様ニテ漸ク助カリタル苗ハ夕顔

充分ニ[illegible]両年ノ実験ニヨリ追テ考モ出来 獨両三年モ

ト[illegible]成長ハ殊ノ外大キクナリ形モヘシテコレニ成リ[illegible]花稀ノ

経過致シ候ハヽ通常ノ農夫ト[illegible]

交換ヨリ此様ニ成リ候ヘシ 先ツ農夫一人[illegible]

[illegible]根付[illegible]本郡白老村字アヨロト申スハ[illegible]

ニ本場ニテ三百石等ヨリ以上ハ[illegible]函館等ヘモ[illegible]

[illegible]此昆布ヲ収入通常ヨリ早ク出荷セシメ又[illegible]保存方ニ

[illegible]ノ上ニ[illegible]

[illegible]昨年又ハ[illegible]本年ハ昆布及ヒ鰯鮭モ[illegible]

[illegible]昨年同[illegible]ニテ[illegible]出来[illegible]二里計山ノ方ニ[illegible]

一百一人ニテ[illegible]

ヲ製シ食スルニ来ト云フナリ[illegible]時候ノ間[illegible]

恐々謹言

明治廿八年十一月廿四日

[illegible]上

田中芳男様

閣下

本郷金助町

田中芳男様

[illegible]

竹窓弟二
松 村深

挿入資料　東京大学総合図書館

北海道膽振國
白老郡白老村
則武鐵蕉

挿入資料 東京大学総合図書館

拝啓陳者過日御書面ヲ頂キ御示諭
之竹実御送致可申上之處幸隣家ノ
秋之京致ス人有之候ヘ共節ニ粉ヲ挽カセハ
試食モ一興ト存シ御送り遅引仕候 且又於竹ハ
根マガリニテハ無之 当地方言「スゞノコ」ト申シ
根マガリヨリ細リ 女竹ニ似テ矢篠ニ類スルモノニテ
其竹ノ梢ニ稲積ノ躰ナルガ如ク熟実致シ一本
ハ十粒ヨリ上百二三十粒ニ至ル 之ヲ取ルニハ「ザル」ヲ
受ケ手ニテモギ取ルナリ 大人ハ一日ニ二升半位ヨリ三升除
三斗除取来申候 実ト粉ハ御送致申上候間左
葉ハ目下雪中二尺余ニテ殊ニ本村ヨリ二里半
山中故取ニ行ニ困却致候間溶雪ノ節ハ取寄
ハ送致可申上候

本年ハ寒中積雪一尺五寸位ニテ 例年ノ深雪一昨
日ヨリ二日一昨降積キ 三尺位ニ相成 烈風ニテ
白浪ヲ捲キ陸家へ打チ困難致シ
本村近傍漁業ハ到テ不漁ニテ 鰤鮭一尾五十銭五十
五銭位 目下 鱈一尾 七銭八銭位ニ御座候
且又何ニカ見立投上候、数未タ相変ル被成得候処
其内到達相願候 右竹実一袋 同粉一袋
差上置候ハ御笑留被下候 委細ハ追テ可得
貴意候 恐々敬白

明治卅九年二月十二日

則武鐘蔵
拝上

田中大人
閣下

東京本郷區金助町七十二番地

田中芳男様

親展

挿入資料 東京大学総合図書館

緘

北海道膽振國
白老郡白老村
字音ヶ神ノ分
則武鐵蕉

挿入資料 東京大学総合図書館

出ス事又ハ通西洋ニ於テハ通常農産ト
不致場所ヲ土地ノ形勢ト守リ此土地ニ於テ耕
ノミニ注ク試験ノ功ヲ得ベシ 三千歩
相模ハ当地ヲ作リ獨リ
桃ノ実ヘ林檎 栗 葡萄ヲ植付ケテ 早川
月ニ於テ牧畜ニテ試験付ハ
林檎ノ他ヲ用ヒ飼料小麦ノ助ケトシ
朝ニ宝円 草民二十二三四歳ニ似テ
鶏ヲ飼ハ之ヲ飼育スル自助ニテ
関ニ益満清寧上植ルル為
也ニ而 五六反売ト馬鈴薯、栗、小麦、大麦
國家ニ有理想ナ小生ハ流ル 甘露
其地野菜ヲ作ル事ニ得ル
殊ニ至其ノ家ニ於テ放念ニ得ル付
家ニ有ル鼻下ノ穴ヲ塞ク菓ノ出来ル
仕ニ従事ル 夏段ヲ二不須ク盛鉄
上ヲシテ 閑ニシク少数道ノ如材料ヲ出来
り 到着有変仕ル小田原乃抽餅
ニ而ト三四年ヲ経過シテ行ヲ行フ
早速賞味仕り候 実地の神助ニ而 ニ
ノ数ヲモテ頼ミ作リ出シニテ
優ニ千数等ニ有ル 又神農園ノ
懐中提灯ヲ手ニ取ル便利ニ参ル
廉價ニテ 実用ニ富ミ 蔵伏仕リ
新シキ技ニ進歩シ 機ヲ伸ル際 渉ル
諸シ 此際ニ驚キ出シ而し ナシ 御
之ヲ蔵ス 試ル 研究便利ニ至 御段
上海ニ在リテ 猶 栽培出来 足ヌ 此地
誠ニ経験多ク 但 此地ニ出来ル付ケ 隣村
数生村ニ於テ万六千年ヲ 以テ 出来得

優ニ千数等ニ有之候 又神農園の
懐中提灯も手軽く便利ニ御座候へ
廉價にして実用ニ富ミ感伏仕候
新しき故カ粗造ニ機ヲ仲ニ際シ御座候
候し此際頼〻出し居れ候ハゝ宜敷
之有盛ニ相成候 誠ニ得有便利ニ御座候
上候ハ義の模様中止候 是又小生等地
誠ニ種苗多く 作物ニ出来候付此隣村
敷生村ニ於テ万六千坪ニ已ニ志キ候所
御蔵地付本月下旬より両児を差出し 小生儀ハ
此頃段中ニ此地ニ而も一万歩ニ 三個所ニ
出来候由ニ付 本年も勉強可致候而
御開植付候積ニ御座候 右御栄
旁ニ而 右御禮神吉御礼申上候
恐々頓首

明治廿九年三月吾 則武鐡甚

田中芳男様

机右

封筒内資料 東京大学総合図書館

タケミソ　天竹黄 Tabasheer.　英華字典 英華韻府

ウェブストル字書曰 Tabasheer ハ百爾西亜語ニシテ素ト Tabashir 白堊トイフ語ヨリ轉シ来ル名ナリ此物竹ノ節間ニ生ズル凝結物ニシテ大抵純粋ナル玻石ヨリ成ル東印度ニ於テハ之ヲ藥劑ニ供シテ價甚貴リ膽液性ノ嘔吐血痢痔疾其他相類スル症ニ稱用ス

林氏本草竹ノ條中ニ曰 Tabaxir ハ百爾西亜語ニシテ結石シタル乳汁ノ義ナリ昔ヨリ有名ノ品ニシテ印度人大ニ賞誉シ西洋人モ亦之ヲ称

トセリ是竹ノ含有セル乳汁様液ノ乾キテ堅リナリタル者ニシテ新竹ニ具フル甘味ノ液ト同性ナリ老竹ニ至リテハ此液色味ヲ變シ凝結シテ堅塊トナリ恰モ浮石ノ如ク一種ノ異味アリテ差収斂スルヿ大抵焼タル象牙ノ如シ印度人之ヲ竹糖ト名ツク亜刺伯及ヒ百爾西亜ノ人藥用トシ大ニ之ヲ貴ヒ其位金銀ト均シキニ至ルヘルドフーヘル植物字彙竹ノ條ニ曰若シ竹幹堅密ニ過ルトキハ節中自然ニ蜜ノ如キ液ヲ滴出シ太陽ノ温ニ因リ次第ニ凝結ス是古来傳フル所ノTabashir.ナルベシ

佛大字書竹ノ條目竹ノ節間ハTabashir.ト名クル物ノ通常ノ居所ナリ此物玻石質ヲ成シテ僅少ノ灰石質ト有機性ノ物質ヲ雜ヘリ是甚琦珎奇トセシ所ノモノナリ

右ノ數説ニ因レハ老竹ノ節間ニ瀦溜セル甘液次第ニ凝結シテ砂石状ヲナス者ヽメ其性玻石質ナルト見ユ玻石質ハ竹幹ノ外面其他木賊麥稈等ノ如キ堅キ質ヲ造成スル為ニ具フル質ナレハ素ヨリ竹中ニ存在スルヿハ怪

ムニ足ラザルナリ
本邦ニテハ九州地ニ於テ竹中ニ液アル者多リ殊ニ薩州ニテハ竹中ヨリ砂石状ノ者ヲ出スヿ屢アリト云ヘリ
東京ニテハ野州常州ヨリ切テ出セシ竹ヲ七八月迄邨置テ割ルニ水或ハ砂ノ如キ者ヲ出スヿ間アリ其砂状ノ者ハ灰黄色ニシテ蜊蜆蛤ニ一杯モアルノミナリト云リ

右ハ物産家天竺黄ノ攷也 明治四年比ノ筆記ナリ 田芳

タケミシソ 天竺黄 Tabasheer 英華字典 英華韻府

ウエブストル字書曰 Tabasheer ハ百爾西亜語ニシテ素ト Tabashir 白堅ト云フ語ヨリ轉シ来ル名ナリ此物竹ノ節間ニ生スル凝結物ニシテ大抵純粋ナル玻石ヨリ成ル東印度ニ於テハ之ヲ薬剤ニ供シテ價甚貴ク膽液性ノ嘔吐、血痢、痔疾其他相類スル症ニ称用ス
林氏本草、竹ノ條ニ曰 Tabaxir ハ百尔西亜語ニシテ結石シタル乳汁ノ義ナリ昔ヨリ有名ノ品ニノ印度人大ニ賞誉シ西洋人モ亦之ヲ珎トセリ

是竹ノ含有セル乳汁様液ノ乾キテ堅クナリタル
者ニシテ新竹ニ異ナル甘味ノ液ト同性ナリ老
竹ニ至リテハ此液色味ヲ變シ凝結シテ堅塊トナ
リ恰モ浮石ノ如ク一種ノ異味アリテ差収斂スルヿ
大抵焼キタル象牙ノ如シ」印度人之ヲ竹糖ト名ツ
ク亜剌伯及ヒ百尔西亜ノ人薬用トシ大ニ之ヲ貴ヒ
其値金銀ト均シキニ至ル
「ヘルドフーヘル」植物字彙、竹ノ條ニ曰若シ竹幹堅密
ニ過クルトキハ節中自然ニ蜜ノ如キ液ヲ涌出シ大
陽ノ温ニ因リ次第ニ凝結ス是古来傳フル所ノ
Tabashir ナルベシ
佛大字書竹ノ條ニ曰竹ノ節間ハTabashirト名クル物
ノ通常ノ居所ナリ此物玻石質ヲ成シテ僅少ノ灰石
質ト有機性ノ物質ヲ雜ヘリ是昔時大ニ珍奇トセシ所
ノモノナリ

右ノ數説ニ由レバ老竹ノ節間ニ瀦溜セル甘液次第ニ
凝結シテ砂石状ヲナス者ニシテ其性玻石質ナルト見
エ玻石質ハ竹幹ノ外面其他木賊麥稈等ノ如キ
堅キ質ヲ造成スル為ニ要スル質ナレバ素ヨリ竹
中ニ存在スルヿハ怪ムニ足ラサルナリ

東京大学総合図書館

本邦ニテハ九州地方ニ於テ竹中ニ液アル者多ク殊ニ薩州ニテハ竹中ヨリ砂石状ノ者ヲ出スヿ屡アリト云ヘリ

東京ニテハ野州常州ヨリ切テ出セシ竹ヲ七八月迄貯置テ割ルニ水或ハ砂ノ如キ者ヲ出スヿ間〻アリ其砂状ノ者ハ灰黄色ニシテ衡規鈴ニ一杈モアルノミナリト云フ

天竹黄ノ語
十九年十二月
町田久

町田久成

天竹黄之記

東京大学総合図書館

前日ダバシエㇾ及（飯野郷大河平産）江南竹ノ節ヲ供セテ呈
ヒシハ彼ノ竹節ノ形状及竹黄片トタル
共ニ其実體ニ就テ御考證ヲ可主哉
尊意ニ左シ竹節ハ永ク天竹黄ト
共ニ御貯蔵可被下候猶ダバシエㇾ
ノコトニ付思ニ出セル一事アリ録シテ
御参考ニ供シ候

愚父博物考究ノ僻アリテ目ニ觸
ルヽニ随ヒ採テコレヲ考究シ貯蔵
セシコトナルニ其蔵物中ナル天竺黄
種根タル黄色ノ小球状ヲナシ佛舎
利トモ云ヘル物ニ似タリ皆圓滿ニシテ
圭角ナシ前日呈スル物ト甚タ異ナ
リ是ハ採邑ナル薩摩國日置郡

伊集院石谷村ノ字仁田尾（ニタオ）ト云ヘル処
ノ叢中ノ破竹ノ内ヨリ出タルモノ
ニシテ竿中ヨリ凡リ百餘粒ヲ得
タリコレハ小生幼児ノ頃ノコトナリ又
同所ニ於テ庭前ノ孟宗竹ヲ伐
採セシニ凡ツ尺二三寸圍ノ竹ニシテ
其地上二三尺程ノ處ノ竿中ヨリ

殆半余ニ充チタルカト思フハカリニ
清水ヲ貯ヘタリ彼ノ竹ヲ伐リテ
器具ニ作ラントセシニ不図節中ニア
ル水ノ音ヲ聞カ如クナリケレバ
試ニ截断セシニ生竹ノ香氣アル
水落シ出シタリ 惜哉地上ニ流失
セシノミニテ其味如何ニヤ不知

想フニ此ノ水凝結シテ小珠或ハ片
状ノ天竹黄ト成ルモノ歟

明治十九年十一月十九日燈下把筆

町田久成志

呈

田中先生研北

竹ノ區別

佛國巴里府ニアル外國栽植會社ノ報告一千八百七十八年四月第四号ニ竹ヲ區別スルノ詳説アリ
即チ三大部二十一屬ニ分ケ總計二百二十種アリ
其内日本ノ品ハ唯八種アルノミ

青森縣

竹

津軽地方ニハ　マガリダケ　クマザサ　ノザサ　三種アリ

マガリダケ　津軽地方ニテ　チダケ　トモ云フ　山ニ生ス　トモ云フ　又十和田山ニモ

アリトモ云フ　長　六七尺ノモノトシ出セリ　籠ヲ編ミ　桶ノ箍トス　尤大桶用ノ箍ニハ

遠地ヨリ来ルトモ云フ　其筍美味ナリト云フ

弘前ノ市中ニハ　物乾竿用ノ竹アリ　是ハ輸入品ナルモ　深浦ニハ　竹林アリ　又八ノ戸

ニモ　モ竹アリトモ云フ

青森ニテ一昨年　仙台地方ノ竹ヲ取寄セ植付シモ　各郡ナシモ　今存スルハ

二三ケ所ナリトモ云フ

西津軽郡　深浦観音堂ノ境内　今ハ揚地トナリ　我主ノ持山二三百

坪　マダケ　囲一尺二三寸

南津軽郡ノ　乳井村　所當地　百坪許　廿一年前ヨリ　ザダケ　アリ

明治廿二年九月十三日

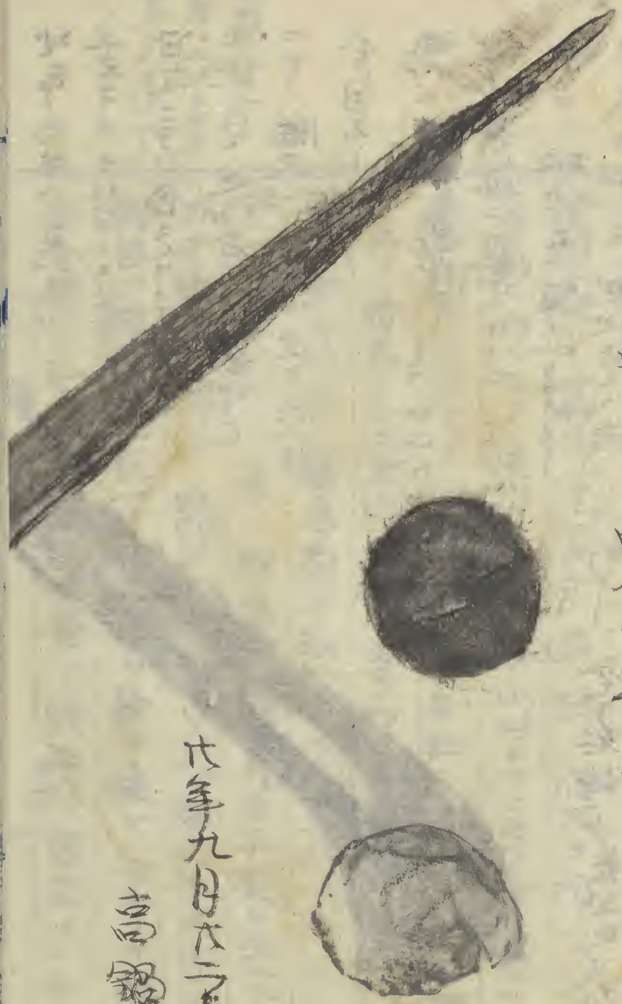
田中芳男記

ニガタケ　西津軽郡ニテ称スルモノ、即チ苦竹ナリ　エブリ　トモ云フ　箆形ノ小ナルモノヲ作レ

サヽ　皮ノ竹九枚笹ナリ　地ダケ　ト同様ニ見エシモ別ナリト云フ

西津軽郡堀岡村戸長野呂武左衛門（藤崎ニ出張ノ際）ノ庭ニ小浦ヨリ移スル竹

アリ　既ニ根付ケリ是ハ繁殖自由ナラン

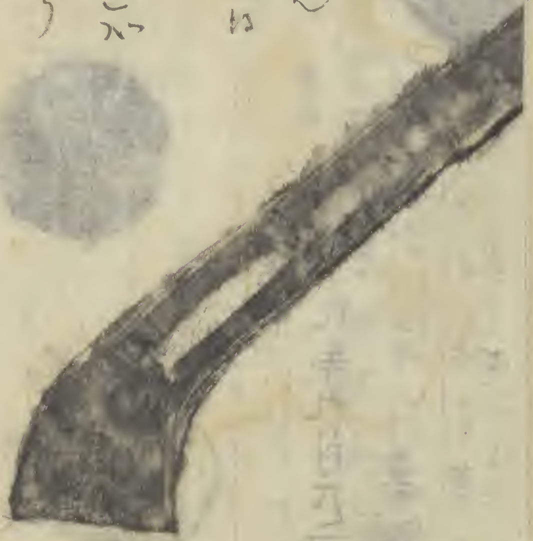


キミチノ筍　但此モノハ秋土用ニ生スルモノニテ今是ヲ採ル

モノニシテ甚ダ見事ナリ　当大之ハ経ニオコヲ見ルト云フ

十年九月廿二日　高鍋　手記

此節ノ高サヲ見ル長サ
二三寸ハ七八寸ノモアリ
日向ニテハ食スルコトナシト云フ
土佐ニテハ之ヲ食スレトモ苦味アル
ニヨリ灰汁ニテ煮テ水浸シ然ル後
食用スルトイヘリ
此竹ハ陸地 藩籬トシテアレハ
塩ト家毎ニ見ザルナキモノナリ
而シテ垣トナスハ短キ竹ニテアリ
且太カラザレトモ 肥地ニ之ハ能ク大幹ナリ 空テ此幹ノ黄金色ナルモノアリ
キニ于リノ名アリ 又 高燥ノ地モ 水湿ノ地モ 繁殖スル一般ニテ 津浪モ打テ
根ノ甚ダ強ク堀起トモ見エズ二三ケ月ハ無事ナリト聞ク



△女竹ハ市中ニ
売ルハ之ノトヨブ
女ダケノ名アリ
トイフ

安房ノ竹

明治二十三年十一月十五日　田中芳男記

安房ノ地ハ 女竹ヲ女タケ 多ク殊ニ海風ヲ防クニ必用ナルヲ
以テ到ル所ニ之ヲ植列ネタリ 又山村ニテハ之ヲ切リ出スコト多クリ
漁業仕掛ノ用具トシ 又 籠筵等各種ノ製造アレトモ 土地ノ富
ニ上リ 精良ノ品ヲ見ズ 今切リ来ル竹ヲ見ルニ 細大二種アルカ如シ
因テ各々ニ問ヒテ其区別ヲ知ル
(甲) ニハベダケ 是ハ幹高サ七八尺乃至十間ニ至ル又ノアリテ
太サ径寸餘アリ 節ハ永ク存シテ厚皮内面ニ裏アリ
節間ハ一尺餘 ナリ 葉ハ長ク 狭シ △此又ハ 内ニ大竹
ヲ分チテ ニノダケトヨブ 是ハ肥痩ニ因ル又ノハ 如クナレトモ

自ラ別アリト云フ 高サウライチヨリ二肥大ナル痩ナルノ二アリ
殆ンド別物ノ如キ者ナレドモ一種ナルカ未ダ詳ナラズ 尚他日ノ再検
ヲ要ス 此筍ハ苦味アレドモ大クシテ食フニ佳ナリ
(乙) ニガタケ 是ハ長サ一丈 径比ニシテ節低白ク多シ
幹細クシテ黄褐色ヲ帯ブルモノ多シ 葉ハ小ク 筍苦クシテ
食フニ堪ヘズ 諸ノ田前後ニ生ジ苦竹ト云フ 又前後ノ方ニ生ズル者
類似色ニ比シテ同様ナル所多シ 尤混ジテ区別シ難キモノモ
アリテ且湿リ易シ 按ズルニ是ハハコネダケ 箱根竹 ニガタケ
ノ名ハ筍ノ味ヨリ来ルナリ
(附) 山生細幹ノ ニガタケ ヲ コカラダケ ト云 是ハ大ニナラズ 別種トス
方言 カラタケ

実竹

陸前松島ノ名産ナル実竹ハ同所福浦島ノ産ナリ 此島ハ
曾テ寺アリシガ今ハ廃シ 唯雑木林トナリ 土人ハ往前ヨリ此島ノ
竹ヲ切リ出シ売リシモ 目下該島ヨリ出ルベカラズ 故ニ他ノ私林ヨリ
切出スト云フ 果シテ然ルヤ否 松島ノ竹商ヨリ竹幹ヲ求メ甚
多シ 之ヲ尋ヌルニ 日本中ニ一本モ有ル無ニシテ且直ニ実ナル竹ハ
甚ダ稀ナリト云ヘリ
福浦島ハ苦竹林ニテ他樹交リ又篠モアリ 且陸ノ方モ採リタリ
本日松島ヨリ小舟ニテ発スルニヨリ 該島ニ舟ヲ寄セ 上陸スルニ
細路ニ草木繁生シ 殊ニ荊棘ト蔓草ト倒竹ト竹篠叢
ト互ニ交錯シテ進ミガタク 且朝露未ダ乾カズ 衣服為メニ濡

ルニヨテ厭ハズ踈採スルニ又更ニ実竹ヲ見ズ皆苦竹ナルカ如ニ出シ上ケ
竹幹ノ中央ヨリ切リタルモノヽ倒ルヽハ根部ノ実ニタルヲ採リタル人ノ往カ
根除ヲ切倒ニタルハ切試ニテ実ナカリヲ棄テタルナカ随所ニ散
乱セリ断ヲ似数ノ者ヲ見テ其葉ヲ持タルヽ茲ニ於テ竹商ノ
話ヲ想起ニ稀有ノ者タルヲ知ル其故カ松島ニ於テ売ル所ノ
実竹中ノ巨材ニシテ中心実スル者ノ價格ヲ貴ク又長サ四尺ヲ
アリテ本末共ニ実ニ鞭杖トスベキノ價而壹タ一本ノ價
金ニ円以上ナリシ

明治十九年八月一日　仙台ニ於テ　田中芳男記

右ハ旅中記ス所ニテ乾筆ニ浄書レノ文ナリ写スニ当リ聊カ校訂スル

明治九年八月群馬県吾妻郡西大塩村医者井上丕善
氏ナル者ヨリ博物館ニ物名ヲ寄贈セル中ニ実竹
ノ杖アリ其杖ノ解説アリ左ニ録ス

○

実竹此ハ竹根ノヤヽ深キモノ稀ニ地上ヘ出テ枝葉ヲ生シ
タルモノナリ故ニ地際ノ細根ノ下ノ節間ヨリ泥ノ満タリ
常ノ竹ハ細根ノアル節ヨリ枝アル節マテハ節間ニ満ア
ルコトナシ稀ニ地際ヨリ節間ニ満アルモノハ地中ノ横根
ノ深キモノヽ出タルモノナリ又大竹林ヲ定リ切リツリ

宮寄要ニ云名ノ下ヘ押ストハ古人ノ印材ハ実竹ヲ用ヒシコトヲ云フべし

スケハ甚古年往々実竹ヲ出スコトアリ甚シハ食指クライヨリ巨キモノハ出ヌモノナリ前ニ予ガ實名ノ下ヘ押シタルモノ即是ナリ此ヲ見分ルニハ地際ヨリ月二尺バカリ上リテノ指ノ屈ナタル如ク曲リ出タルモノヲ切レハ必實竹ナルモノナリ

右ハ宮寄ノ為ノ言覚

明治十六年八月二十日 吉野宮寄記

田中芳男

桂園竹譜所載實竹說

○

實竹一名實中竹一名實心竹ハ和漢通名ニテ但ヨリ陸奥國松の竹島（本草綱目）及阿波國一宇山ニ（本草啓蒙）但馬産スルモノソノ名殊ニ高シ今ニ於テハ此說有コトヲシラザルハクアル其枝葉ヲ見ストイヘドモ李息齋竹譜ニ實竹一ニ浄瓶竹ノ如シト見ヘタレハソノ枝葉ハ蓋シ布袋竹ト大抵一様ノモノナルヘシマタ陸奥國松島ニ産スルモノアリ瓜涼大南桂御太郎（秋田藩ノ人字ヲ天民トイヒ号ヲ詩仏マタ江山トイフ）ソノ地ニ遊歴シテ二竿ヲ携帰リテ杖トセシヲミルニ

草稿用紙
農商務省

一竿ハ長サ四五尺餘径リ五六分許ニテ毎節ニ竹ヨリモ高ク
シテソノ間初生ルコト三寸許ソノ枝ノ生スルカタニ溝渠
アリテ常竹ヨリモ至テ深クシテ下節上ヨリ上節下ニ至
ル　一竿ハ長サ五六尺許ニテソノ節間四七寸或ハ
八寸許ナルモアリテヤヽ太シイツレモ根ニ近キ所ノ二三
節ハ常竹ト同シク廿ツノ節間ツマリテ短シソノ根ノキ
リロハトモニ充実シテ心ナシトイヘトモ梢上ノキリロ
ニ至リテハ、鋼ノ穿ツヘキ程ノ細カナ竅アリ又小野蘭
山ノ見タリシハ径リ一寸餘ノモノニテ船来セシハ径リ二三
寸ノモノアリト（本草綱目啓蒙）イヘリ栗本瑞見ノ校[illegible]氏

ヨリ贈リシトイヘルモマタ蘭山ノ見シト同シクリソノ径一寸
許ノモノナシトモ別ニ図セシハ長サ廿寸許ノ竹ニテヤヽ細シ
スヘテコレ一物ナリマタ西土ニハ実竹ニ文彩斑駁ナルモノ
アレハ至テ大ナルハ梁柱或ハ床ニモナスヘキモノアリ又
満心竹ノ脳傷竹ト（竹譜詳録）イヘルモノアリコレハ蓋
シ実竹ノ土地ニヨリテ方言ノ異ナルモノニテノモアルヘキニ
ヤ
本草鰷ニ実中竹松前竹島志之串海気以寄遠者是
本草綱目啓蒙ニ云實心竹ハ鳥私景ノ説ノ實中竹
寸西南一里子山ニ生ス径寸餘鄉米ノ名ハ二三寸ノ

草稿用紙
農商務省

往々之有リ本草彙言ニ文彩斑駮可為器物
丹州圓竹云此竹ハ成子ノ暮春枝葉白ヨリ行タリ根ニ近キ所
ハ実ノ心ナシ云々許リ上ハ細孔アリテ尋常一般ノ竹ニ比
スレハ微弱ニシテ中心充実ニシテ竜ヒ溝渠キ之ノ曲
又云實心竹ハ異ナリ只実竹ト云心ニ空孔ナレトマヽ
孔アレハ針穴散ノ如シ本草綱目啓蒙ニ云実心竹ハ即私
云是ノ実中竹ナリニク意ニ斑駮ト云ハ人工ニテ斑ヲ作
為スルモノ多シ天然ノ斑文ニアラス
集注本草云竹類甚多入薬用篁竹云々又有実中
竹益以筍為佳于薬無用 證類本草

本草綱目云竹惟江河之南甚多故曰竹篠大国竹蕩甚
中皆虚而有実心竹出滇廣其竹皆円云々
竹譜詳録云実竹枝葉節茎出廣一如浄瓶竹
但無股項心不空虚枝身少令人好斫而作鳥
籠殊甚堅穀 東ニ浄瓶竹ハ竹譜ニ江浙閩廣俱有之枝葉与諸竹不異但去地一二節便
疏腕有項有腹宛如一瓶故上有竹節仍如常竹其節極堅人取
為旌杖トミヘタリ 今モフニコレ即於此竹ノ一種ナリ
又云満心竹生廣西陽朔山中枝葉一如笛竹但節
実無心故名満満之閩亦有之筍味佳雲南記云
雲南有実心竹文采斑駮可為器用唐僧詩
有実心竹杖詩 案此或即満心竹是也

又云服傷竹江寧諸郡往々有之大者五寸圍長二丈許其中實四月以後出筍味甚苦故棄之也

竹譜類服傷之義未聞贊寧曰大者五寸圍長二丈中實古人以削為篇四月筍子

雲南記云雲南有實心竹文彩班駮殊好可為器物其上以為標幹交脉（交綏明ニ作ル之字ナシ）

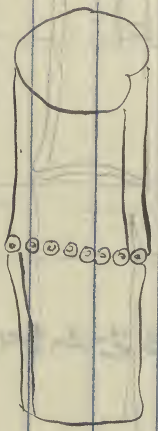
南越八郡志云黃溪縣有大竹數圍實中任屋梁柱覆用之則當瓦

建昌縣志云實竹節長皮小厚肉微細可作鞭策筍味為佳

南昌府志云實竹四月始有筍

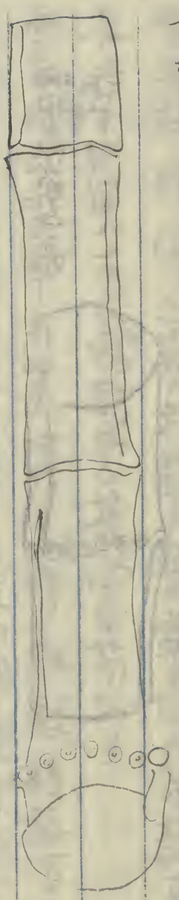
江西通志云實竹可華四月始有筍

八閩通志云實竹可剖為器用

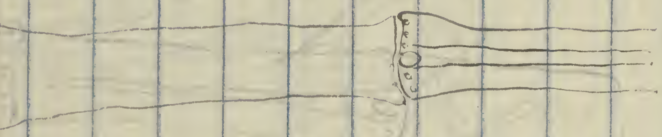


丹邱園竹所載實心竹之圖

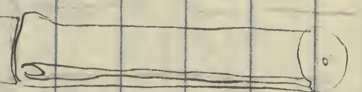
又丸図の第スソノ工又工ニ有之 頭ヨリ子の下キハ竹節ハ二ツ有之
阿陽図ノ者ナルモシレデカラズ

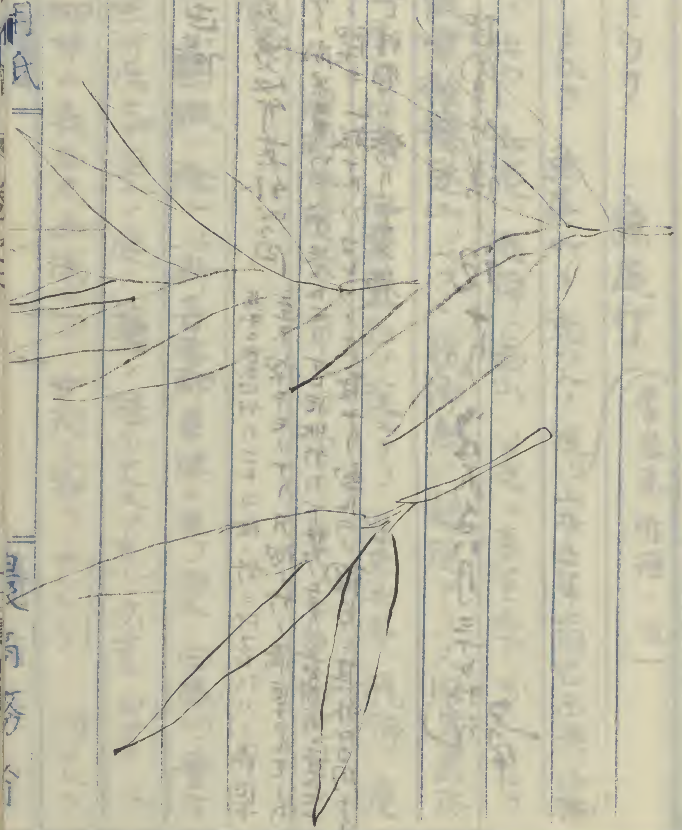


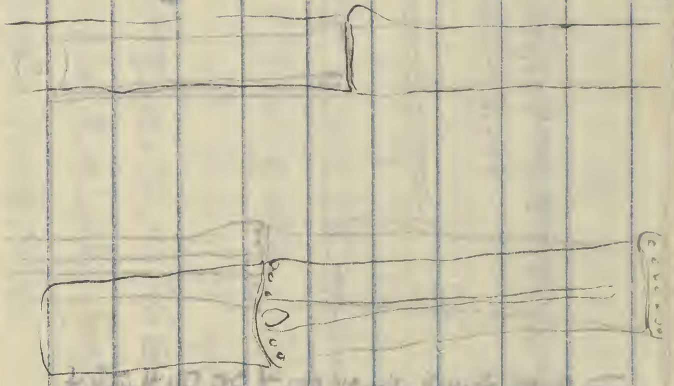
大窪云氏呂松島所蔵宝竹放之図



青厓云 鵜外ニ二図アリ 惑フニ其中
アナドマトレ之ヲ図ス







正誤

本草綱目ニ云ク寅竹其外吉円 安キニ寅ン竹ハコレヲ他ノ竹ニ比スレハツノ溝深ク至テ深キモノナリ凡他ノ竹ノ溝浅キモノハ
大低一節ノ間半目ハカリニシテ尽ルモノナレド此竹ハ下節ヨリ上節下ニ至ルマデ
其溝深ノ深キ一様ナルハコレソノ天性ナリ然ルヲ綱目ニ其外吉円トイ
ヘルハ蓋シ桂図ノ誤リナラン歟

右桂園竹譜ノ説ナリ 以上かかり三十日補記

サヽウラ 魚尾竹（李息斎竹譜ノ説）

サヽウラ ノ以テ魚尾竹ニ充ツルノ説ハ山本亡羊翁百品考初編
上四十枚ニ出ツ 和産ハ飛騨ノ高山 日光ノ華厳ケ原ニ多シトテアリ
又 華彦堂雑録巻二ノ七ヲニ飛騨産ノ図説アリ 又興農叢誌
第一集ヲ巻ノ四ヲ並ニ伊藤圭介翁ノ説モアリ 原来此書ハ飛騨ノ産
最モ名アリ 又 津国博覧会ノ節モ四五本ヲ出セリ知ル伊藤翁ニモ
出セシヤニ覚ユ
本年八月ノ賜暇ニ際シ上野吾妻郡草津ニ至リ同所白根山ニ登ルニ
葉尤 發生河原ニテ五六人ノ途ニ箸ノ径小大ノ竹 方言 コザヽ ト
呼ブ 此 細竿ハ長五尺未満ニシテ中間ノ節ニ サヽウラ ノ附着スルヲ

クマサヽ

△又笋実ナルモノアリ 百本ニ一本之アリ [illegible] 稈ヲ取リ 此稈ハ笋 ノ枝上三寸又上ノ節ヨリ実 穂ノ茎ニ黄ナル上中ニ至ル 実ヲ付リ但シ実ノ多カリシ 故ニ長大ノモノハ枝ノ茎長ク短キモノハ短キナリ

是ハ因テ甚此ヲ捨スルニ容易ニ得ガタシ 又落ナハ笋ニ付タル促笋共モ

枯レ又促アリ 又葉ノ着ノ所太ソナリテ殆ド似タルモノアリ 是ハサヽウ

近ヲ縮マリニテ伸ヒ葉ノ成長セルモノナリ △此白根山ハクマサヽ密生シテ

更ニ道ナキニ至ル 之ヲ押ルケ叢間ニ箸ニ着生スヲ見 此長大五六尺ニ

至ルヲ方言クマサヽト云フ 大ナルヲ以テ方言ヲ異ニスル也 別ニ変ヘタルニアラズ

此五六尺ニモ至ルモノハ多クハ本笋ハ倒レ枝ノ成長スルモノニシテ 葉ハ六七枚許ヲ抜

上ニ着ク 此笋ノ節ヨリ出ルモノ枝ノ縮ミテ伸ヒザル時ハサヽウト云フモノナリ

但シ捨ル所ハ前年ノサヽウテ成長ノ後年カナルモノヲ見ルモノナリ 其長サ

三寸以上五寸許 枯ルモノ二ハ 華蔭堂雑譚ノ図ニ近キモアリテ寫ス

アリシ 捨来ル分ハ此枯節ノ故シ 又何モ痛アラ

十八年九月十二日

田中芳男記

シマヨシタケ　Arundo donax, var. versicolor.

此本ハ Arundo（アランド） donax（トナキス）ノ変種ニシテ葉白縞ヲ帯ビ装飾ニナス。南欧羅巴ノ産ナリ。本邦ニ傳ハルハ佐野常民墺国博覧会ノ時[redacted]小苗栽ナリ携帯シ帰リ之ヲ栽培セシハ明治十一年ナリ迄ナレカ今年来栽ヘシ地ニ植入ニ忽チ繁殖セシ一丈二三尺ニ至ル

我ヨシタケニ異ナリ冬之葉ハ枯ル西ヒテ葉ノ白條アリ（明治十二年ノ今　小杉文拾）美麗ナリ其葉ヲ以紙ヲ作ル欧洲ニテハ三尺許ナルモ之所ヲ茎ヲ延シ如ク一丈ヨ至ル太サ径七八分ニ及ベリ西洋ニテ茎ヲ笛ニ用ユ

日本ニ来リテハ博物場園中ニ繁殖シ壮観ナル西ヒ十二三尺

コザヽ　即クマザヽノ瘠小ノ者

飯ニ蔵アノ手ヲ経テ購求セリ

明治十八年九月廿八日

田芳記

男竹牲𡍼　瑁竹

一モウソウ　薩摩
一サビタケ（マダケ）
一ハチク
一サビタケ（ハチク）
一ギハンチク（ハチク）
一メクロタケ（ハチク）
一シボチク　淡路
一マタラタケ　丹波
一コマタケ
一ニタリ
一シロカラチク

レモ下ノ方、色濃ク、上ノ方淡シ、凡斑竹ハ和漢其品類多シト雖モ此竹ノ如ク自然斑文ノ異ナルハ實ニ天下ノ奇竹ナリ、爰ニ八年ヲ經テ乾枯セシ一幹ノ形狀ノミヲ擧クレドモ、其生竹及ビ細小ナル竹多ク生ズトイヘバ、其斑文ノ變化百出、異狀ノモノ多カルベシ、或人其地ニ至ル時、土ノ幹ヲ裂テ箋トシ蛇籠ヲ作リ、藤川ノ水防ニ供スルヲ見タリ、カヽル奇竹ヲ以テ尋常ノ用ニ供スルハ最モ惜ムベシ、此竹駿河ニノミ產シテ他邦ニコレ無キヲ以テ、諸家本草絕テ此竹ヲ載セズ、

竹實

天保年間不熟ニヨリ大ニ荒飢ナリシトキ人民竹ノ實ヲ取リ食料ニ充テ為メニ饑餓ヲ免レシコトノ話ハ往々口碑ニ傳ハリタリ

今信州下伊奈郡ノ一老人ニ逢ヒ竹實ノコトヲ尋ネシガ竹實ハ近山自生ノスヾタケ及ヒ深山ニ生ズル（木曽峠殊ニ多シ）ヘイチクノ実ニシテ他ノ竹実ニハアラザルヨシ此実ヲ結ブノ後ハ其竿皆枯レタリ其実ヲ結ブニ當リ人民争フテ山ニ入リ採集シ一日ニ採ル所ヲ擔ヒ出ス能ハザルノ量アルニ至ル之ヲ採ルニハ筵ヲ胸下ニ懸ケ竹叢ニ入リ実ヲ結ブ穂ヲ集メ振リ落シ次第ニ集ムルナリ勉強者ハ五六俵ノ竹実ヲ集貯フニ至レリト食法ハ粉トシテ團子（ダンゴ）摘入（ツミイレ）等ニ作リ食スルニ蕨根ノ粉葛根ノ粉松ノ甘膚（アマハダ）抔ノ如ク飽クコトナク數日間續ケテ食スルヲ得ベキノ美味ナリトゾ

右ハ天保ノ初ナリシ氏淡竹（ハチク）苦竹（マダケ）ノ実ヲ結ビシハ其後ノコトナリ

農務局

東京大学総合図書館

時ニ実ヲ結バントスルニ遇ヘバ前年ニ葉堅密トナリ次年ニ実ヲ
結ブ但シ各地同年ニ結ブニ非ズシテ次第ニ之ニ結実スルニ至ル
結実スレバ黄衰シテ枯ル因テ竹工ハ大ニ困難シ豫メ貯
蓄スルニ至レトモ尚其用足ラザルヲ憂ヘ種々ノ代品ヲ作リ
出スニ至レリ如此大ニ竹ニ結ブノ実ハ食用スヘキ程ノ者ナシ
故ニ食用スルハ前ヘイダケ　スヽタケニ限ルト云フ
此結実ニ因ノ各地ノ竹林次第ニ枯レタレモ全ク枯尽スニ非
スレタ其後ハ細小ナルモノヲ生シ次第ニ繁茂シ往前ニ復ヲ
ナセキ再ヒ十分ノ竹ヲ生スニ至ルハ十年余乃至十五年
シモ経タリト云フ

明治十一年九月十三日　田中芳男記

本物産室庫六五号ノ五十二葉ヨリ出ハラ抜抄ス　十二年十月八日

産第八一七號

當郡内ニ於テ淡竹苦竹江南竹等ノ筝ヲ乾筝ニ製造云々伺申越
ニ據リ取調候處筝發生ノ節輪切或ハ二ツ切ニシテ日光ニ乾上
ケ俵等ノ如キ物ニ入レ儲蓄シ食用ノ節凡三日前水ニ浸シ和ケ
テ食用トス其他著シキ製造法等ハ無之候此段御承知相成
度候也

明治二十年十二月廿四日

京都府乙訓郡役所

東京木挽町二丁目
大日本農會
御中

干筍

干筍ハ蘆筍綠筍ノ二種アリ大ナルモノヲ綠筍ト云ヒ小ナルヲ蘆筍ト云フ蘆筍ハ則蘆筍ヲ以テ製シタル者ニテ其形チ小ナリ浙江有杭州府上相縣ヨリ出ツ綠筍ハ綠竹ノ筍ヲ以テ製シ福建福州府ノ近傍ニ産ス綠竹ハ其葉大ニシテ竹幹殊ニ綠色ヲ帶ヒ叢生スルヿ荻ノ如ク四時筍ヲ生ス幹ノ大サ二三寸ヨリ五六寸或ハ七八寸ノ者アリ長サ一丈五尺ヨリ二丈以上ニ至ル福州近傍ノ村落屋後ノ風除ケニハ多ク此竹ヲ栽ヘタリ（土人ニ名ヲ問ヒシニ簍竹ト答ヘタリ）此竹本邦ニテハ長嵜近傍ニ

間々栽ルモノアリ相傳フ支那ノ僧道本歸化セシ時携ヘ渡リ初テ長崎ノ支那寺崇福寺ノ山上ニ栽ヘ其處ニ小庵ヲ結ビ竹林庵ト號ス故ニ長崎ニテハコノ竹ヲサシテ唐竹或ハ竹林竹ト稱ス亦筍ヲ生スルニ夏ハ親竹ノ内ニ生シ冬ハ親竹ノ外ニ生ス故ニ俗ニハ孝行竹ト呼フ筍ノ味ヒ苦味アルヲ以テ普通ノ食用ニ適セス

筍夏季ニハ内ヨリ生シテ親竹ヲ涼ナラシメ冬季ハ外面ノ方ニ生シテ親竹ヲ暖ナラシムルト云意ニテ孝行竹ト称ス

夏ハ親竹ノ内ニ筍ヲ生ス

冬ハ親竹ノ外ニ筍ヲ生ス

干筍ヲ製スルノ法ハ蘆筍緑筍共ニマツ筍ヲ盆カ桶ノ内ニ盛リ上ヨリ開水ヲカケ蓋ヲシテ暫ラク炮熟ヲキヨク炮熟シタルヲヒキアゲ板ニ並ラベ其上ニマタ板ヲ布キ板ノ上ニ重石ヲカケヨク々々水氣ヲ取リ竹簀カ或ハ芦簾ニ並ラベ程ヨク臺ヲシテ下ヨリ炭火ヲ用テ烘燥スルナリ釜鍋ニテ炮熟シ或ハ風日ニ晒スハヨロシカラズト云フ
食用トナスニハ蘆筍ハ普通ノ筍ノ如ク開水ニ熟シ頭根共ニ用ユレモ緑筍ハ筍頭ヲ去リ根ノ方バカリヲ食用トナス筍頭ハ硬クシテ食用ニ適セザレバナリ故ニ市店ニ購フニ頭根混スル者ハ其價甚タ賤シ

東京大学総合図書館

明治九年一月

満川成種　稿

本草綱目拾遺巻八諸筍ノ部ヽ

菉筍竹　即玉版筍以毛筍淡煮曬乾者浙閩江西多有有草鞋底蝴蝶尖玉版等名湖州府志菉筍大者謂之潤緑有名泥裏黄者尤美

味甘性平治実喘消痰張石頑云乾筍淡片利水豁痰水腫蕁癧丸用之

毛筍　即茅竹筍筍之大者筍譜毛筍為諸筍之王其籜有毛故名俗呼為猫筍者非也大者重幾二十餘觔猫未出土肉白如霜墮地即碎以楮楮之其軟嫩如腐嗅之作蘭花香毛筍大者清明後方有其出於臘月及正月者形短小籜亦有毛土人名猫兒頭食之多嘈心然消痰之力較勝他筍味甘性平利九竅通血脉化痰涎消食脹多食令人易饑

右ノ説ニ云處ノ毛筍ハ本邦ニテ云孟宗竹ノ如ニ今現ニ支那ニ於テ査問スルニ菉筍ハ福州地方ヨリ出スト実地ニ就テ見ルニ福州近方ニテハ各處菉竹ノミニテ孟宗竹ハ少ナク亦現ニ乾筍ヲ査スルニ菉竹ノ筍ニシテ孟宗ノ筍ニ非ズ亦字義ヲ考ルニ菉竹ノ筍ニシテ孟宗竹ノ筍ニハ非ナルカ如シ或ハ孟宗ノ筍ハ別ニ一種ノ乾筍アリテ但ニ大ナルヲ

同郵ニ従ヒ仮書スベキヲ誤ツテ満鐵ト書ス

以テ某筍ト混シ唱ヘタルニヤ一考ニ備フ

九年一月廿三日寫ス

物産寶庫第二十巻第三十

筍乾ノ説

支那ヨリ来ル筍乾ハ蘆筍乾ナレトモ形モ竹トハ異リ煮熟シテ柔ナリ日本ノ蘆ハ小ナレトモ支那ノ品ハ頗大ニシテ乾腊セルモノ幅二寸許アリ此竹ハ長崎ニ一株アリト聞ク日本ニテ筍ノ最美ナルハ孟宗竹ナレトハ生ニテ切リ乾シ又ハ煠テハ乾シ煑ルニ柔ナラズ十分嫩ナル所ノ乾物モ根際ハ剛堅ナル部ノ如シ又肥後ニテハ野生ノ筍ヲ切リ乾シ貯ヘテ年内ノ食ニ充ルコハ東國ノ大根乾ノ如シト実ニ澤山アル筍ユヘ製スルコ

東京大学総合図書館

甚多シトゾ此竹ハ如何ナル竹ナルヤ

右肥后ノ竹筍ハ何竹ナルヲ知ラサル故同所出張鳴門義民氏ヘ依頼シテ取調ヲ乞フノ返事文左ノ如シ

乾筍ハ マダケ 或ハ コサンタケ（マダケヨリ節間短ク太サハ五六寸周リノモノヲ最上トス）ノ筍ヲ採リ箨ヲ去リ煠テ後小サク切リ乾カシ置キ調理ヲナスニモ又煠ヲ用フト云々

七月二十四日再記

明治十一年六月十一日　田中芳男記

物産寶庫第二十一巻第一

呈　清國筍乾　一本

右ハ武田昌次今般携歸ル所ノ内ヲ分チテ呈ス此モノ数日間水ニ浸シ後煠テ、剥キ煮食スル、松蕈ノ乾タルヲ食フガ如シ按ニ日本産竹筍ハ如此食スルコ難シ故ニ是ハ女竹ニシテ男竹ニ非ルト見エ尚乞高按

明治八年十一月十八日　田中芳男

伊藤先生

東京大学総合図書館

乍浦ヨリ天目筍ト称シ長嵜ニ来ルモノ形扁長ニシテ甚堅シ是篺ヲ去リ丸ナカラ煮テ壓扁シテ乾カシタル者ヲ云是ヲ冷水ニ浸スコト數日ニシテ煮柔カニシ截リテ絲ノ如クシ再ヒ煮テ食フ

又玉板筍等ノ名アリ

竹品淡苦ノ別ハ未タ聞カサレトモ蓋シ能ク熟キタランシニハ同リ食スベキナランシ肥后ヨリモ筍乾ヲ出スト之未能詳

明治十年竹酔日録之 錦窠老人識

筍乾

明治十一年十二月十九日 田中芳男記

鳴門氏ヨリ「マダケ」「ハチク」「コサンタケ」三種ノ筍乾ヲ贈リ左ノ説アリ薩广肥后共ニ山野自生ノ竹多シ其地タルヤ多クハ官山ナリ孟宗竹ハ作リテ筍ヲ食スレトモ是ハ珍敷時分ニシテ味美ナレバ乾スコトヲナサズ其後此三竹筍ノ出ル頃ハ珍敷ナキ時分ユヘ婦女童幼等笊ヲ負ヒテ山野ヨリ採来リ篺ヲ去リザツト煠テ乾スノミナリト之ヲ食スルニハ寒氣ノ節ハ二日許モ水ニ

浸セハ柔クナリ皺モ伸ビテ色モ新鮮ノ時
ノ如クナルナリ然ルトキ切テ魚肉ト共ニ又
蔬菜ト共ニ煮ル等想テ嫩筍ヲ用ルニ異ラ
ズ味モ亦悪カラズ此乾物ハ各自製シ貯ル
ノ外尚乾物店ニモ賣物アリ
「マダケ」ハ彼地ニテ「カラタケ」𪜈云フ
「コサンチク」ハ「マダケ」ニ甚似テ一目分ツベ
カラサレ𪜈唯竿ノ太サマダケ程大ナラズ
シテ節間短キノ異アリ土人ハ能ク區別セ
リ併シ筍ノミニテハ殆ト同様ニ見ルナリ

此「マダケ」ノ筍乾ハ稍黒フナセ𪜈「コサンタケ」ハ頗ル淡色
「ハチク」ハ尚甚色淡シ
今「マダケ」ヲ二昼夜浸シ洗フニ其香殆ト新鮮ノ筍ノ如シ之ヲ煮食スルニ美味ト称スルニ至ラザレ𪜈亦一種ノ
蔬菜ナリ
野田氏曰ク薩摩ニテハ村里ニ於テ筍乾ヲ製リ其内
最美味ナルハ紫竹（クロタケ）ノ筍ナリ此竹ハ大サ囲リ六七寸
ニ至ルトゾ

十年十一月十九日[illegible] 田中芳男記

支那ニハ竹布アリ

陽其三頁

竹ノ効用

竹ハ本邦ニ種[illegible]

ノ材ニ用ヒ或[illegible]

筍ハ食料トシ[illegible]

又竹実アルハ[illegible]

人ノ熟知スル[illegible]

支那ニテハ従[illegible]

ヲ以テ製スルモ[illegible]

ルニ至レバ未タ寒冬ヘ入ラズ[illegible]節ニ及[illegible]十月[illegible]

澤山アルニヨリ皆筍ノ長大ニ至リ最早食スベカラ

博物局

仏国巴里ノ寺院ニ小圃アリ竹ヲ多ク植エ各国ノ竹ヲ集メテ必ス其地ノ土ヲ以テ植ル是ニテ竹ハ[illegible]其研究中ナリ実ニ見事ノ由

二十年十二月

渡辺[illegible]之助ノ話

田中芳記

支那ニテハ竹布アリ

湯島ニ陳

竹ノ効用

竹ハ本邦ニ種類多ク各需用アリテ或ハ建築ノ材ニ用ヒ或ハ器物簟席籠盒ヲ製スベク筍ハ食料トシ籜ハ笠鞋及包裹ノ用アリ又竹実アルハ食用ニテ穀ニ亜ク其効益多キコハ人ノ熟知スル所ナリ

支那ニテハ従来竹紙ト称スル良好ノ紙アリ竹ヲ以テ製スルモノナルハ近年本邦ニテモ擬製スルヲ得ルニ至レルモ未タ寡多ナラス聞ク所ニヨレハ支那ニテハ澤山アルニヨリ皆筍ノ長大ニ至リ最早食スベカラ

博物局

十年十月

井上省三氏

ヲ採リ一石便ニシテ二財ヲ主ナリ抄紙料ニ用フトス
又米国ノ新報ニ拠ルニ近年竹ノ繊維ヲ羅紗
ニ織込ミ更ニ純粋ノ毛ト区別シ能ハザルニ至リ
ト実ニ繊維ノ細織頗ル強靭ナルハ其効用モ亦
紙ニ劣ラズトノコトナリ
前述ノ如ク本邦ニテ竹ノ需用至レリト思ヒシ外尚他邦ニ
於テハ上等ノ物品ニ用フトハ注意ノ至レリトモ云ベシ然ラハ
尚研究シテ其ノ繊維ヲ得ル事トスルカ竹屑ヨリ殖穀ヲ
取ルトカ発明シタキコトナラズヤ

明治十四年三月二十日

田中芳男 記

竹ノ肥料

竹ハ馬爪ノ屑ヲ肥料ニ用ユルトキハ大ニ効アリ又竹ヲ随意ニ
導キ生ズルモ妨 馬爪ノ屑ヲ埋メ而シテ溝(二三尺乃至モ)ヲ
阻テ、呼ブハ太キ竹ノ内節ナキモノヽ中ヘ馬爪屑ヲ充
セタル土ヲ入レ渡ストキハ竹鞭其内ニ入リテ此地ヘ来リ
筍ヲ生ス此地ニ馬爪ヲ入レハ次ノ者ニ其地ニ繁殖シ遂ニ此
地ノ竹藪ハ衰フニ至ルモノナリト武州岩崎高長実験ノ話ナリ
要ニ馬爪ノ屑ヲ用ヒテ効アルトキハ牛蹄ノ屑モ鼈甲ノ屑
モ同シコトナリ然ラハ小笠原島ノ緑亀ノ甲屑ヲ用ヒテ
試ムベシ鹿角牛角ノ屑モ同効ナラン

竹林ニ切破シタル古株ハ久シク生活シテ容易ニ枯レ
ヌモノナリ 然ル時ハ竹林ニ害アレハ之ヲ除クヲ良トス 甚シキ
容易ナラザルヲ以テ 長州辺ニテハ 槌ヲ打込ムト云フ 夫ヨリハ 鉈ヲ
割リ柱ニスベシ 忽ケ腐敗スナリ（石川県多賀郡先ニアリ 別ニ抜除ス）
一 肥前佐賀ニハ 本邦ニ マダケ 多ク上ノ品アリ 東京近辺ニテハ相
州小田原 最良シト 是レハ 海ニ近キ土ハ 塩気ヲ含ミテ 然ルナリ 原
来竹ハ 塩水ニ浸シ用ユルヲ 良トスルナリト 武井氏話セリ

十五年二月十六日　田中芳男

マルヤ

竹

古年植込会字本

一 長野県　印材竹　即 実竹ナリ
一 埼玉　紫竹　即 マダケ
一 同　皺竹　即 マダケ 皺アルモノ
一 栃木　スヾ竹　長壱間半
一 東京（豊島郡多摩郡ヨリ出ス 東京白）　ベニタケ　即 ニヤコカン竹
〃　マダラタケ　即 丹波ノ斑竹
〃　駿河篠竹　節間長ク壱尺八寸余モアリ 且淡黒色ノ斑点アリ
〃　武蔵マダケ　斑アリ
三重　孟宗竹　三十年前 紀伊国牟婁郡ヘ 移シタル 説アリ

滋賀縣 近江 蒲生郡西大路村 慶雲竹 従来諸地方名ノ斑竹なり

同 葭 細長キ 植トシテ用ユ

石川縣[illegible]家 苦竹 ハ 俗ニマガリダケ也又 ニガタケ又ハ [illegible]竹トモ又日 マダケトモ云

同 唐竹 苦竹 真竹 皆マダケ也

同 五三竹 即ホテイダケ

三重縣 勝峯 秋田且本

キンギンチク キンメイ竹なり スハタケ 黒竹なり シチク 小メダケ節高シ

ヤダケ 細ク斧色なり ヨシ 大 アシ 小

外、マダケ ハチク モウソウ アリ

勝峯 クマザサ、ゴマザサ、なり スハタケ ヨシ アリ

兵庫縣 斑竹 加納家 右ハ大キキ男竹ノ斑竹

同 同 宮家 右ハ細キ女竹ノ斑竹ニシテ ミヤコハン竹近し

徳島縣 箱根竹 喜多家 即ミヤコハン竹なり

同 斑竹 河野 池田喜多家 即男竹ニシテ 暗黒斑アリ但し 冊渡ノモノ[illegible]

大分縣 斑竹 豊后 県西八郎治家 即ミヤコハン竹ノ大ナルモノ

同 虎斑竹 (一本五拾銭) 豊后荒井[illegible]家 即男竹ニシテ細し 綿色なり 雲斑竹ノ下等ナルモノ (松井[illegible])

同 同 豊后 巌 聖一家 即ミヤコハン竹 (一本一銭二ノ)

同 斑竹 即斑雑雲紋下等ナリ小斑ノミナリ 男竹なり (一本二銭二ノ)

同 同 (一本八銭) 豊后 吉田 今吉家 即男竹ニシテ能晒シタルモ不信アレ、斑ハ雲斑ノ如ク ニシテ小ナリ且ツ至テ疎 或ハ一本ニ二三点ノモノアリ

同 青葉竹 同 吉良徳平家 (一本二銭) 即ギンメイ竹なり

東京大学総合図書館

ロ　スヾ竹（[illegible]）　笙王子部出ス　ブンゴザヽ住ノ細竿ヲメブンゴサヽニテ簾ニモアラズ　節間長ヒ杖ノ様ナラバスヾ竹ノ類ナラン　長凡尺許

熊本縣　酒井宗　斑文竹　細キ男竹而斑降ナリ　虎斑竹　中等ノ男竹　茶淡斑　全色ヲナス（細ニ過ギタリ）

矢篠竹　シヤコハン竹ナリ　黒竹　ゴマダケノ淡色ノモノ

四方竹ナモ　三竹　ブンザヽ[illegible]　布袋竹ナモ　大名竹　タニミシ竹ナラン

ロ　横峯　斑紋竹　即シまい竹

ロ　秋吉宗　斑入蘭竹　即小キ男竹、緑色ニ茶斑点ヲ

ロ　稲田清　虎斑竹　メダケ　細小竿　暈斑

ロ　杉崎操　斑竹　男竹細　茶斑点アリ　大竹　マダケセ

福岡縣　人面竹　ホテイ竹ナリ　白竹皮

斑竹　メダケ雲斑アリ　虎斑竹　褐細点斑　男竹ナリ

鹿兒島縣　[illegible]　蔵草竹　カニ竹ナリ　虎斑竹　前ナ雲斑ノ男竹

緞節竹（[illegible]）　金竹　キンメイ竹ノ極大ナル　径寸

沖繩縣　マアラコ竹　金竹ニ似タリ

高智縣　縞竹　キンメイ竹也　黒竹　純黒色ナリ　四方竹　径寸以上

京都府　斑紋竹　出京　丹後古寺宗信　男竹雲紋上品ナリ

竹ノ話　三年三月之ヲ堤与聞ク

キンメイチク　緑色ニ白條アリ其條ハ枝ノ節ノ溝ニ

ミテ地理ナシ

スイシヤウチク　白質ニ緑條アリ前条ニ反ス

但其葉ハ条又白シ

タイメウチク　紀州ニアリ幹ニ毛アリ

シーボルト氏記念塔設立之擧ニ御協同有之
因テ別記一枚外ニ名刺書白紙相添差進候間一
名并寄附金之員數トモ左之雛形之通御自筆
ヲ御認金圓相添取扱人両名之内ヘ御郵送被
度然ル時ハ右受取證トシテ「シーボルト」氏畫
壹枚進呈可致候也
但シ尊名必ス御自筆ニ御認被下度儀ヘ御
刺集メ次第折帖ニ貼込物金員ト共ニ澳
利國農學會社ヘ廻送可致故ニ候尤金員ハ
圓ヲ以テ一口ト相定候ニ付多少ニ拘ラス
寄附相成度候事

名刺雛形

族　何某
住所
金員

戸塚静海
伊藤圭介

明治九年　月　日

取扱人
東京第一大區十五小區龜嶋町一丁目三十八番地
戸塚文海
同第四大區二小區小川町今川小路二丁目九番地
田中芳男

農商務省

竹　天年二月辛亥　三田葆光ニ聞ク　伊勢人

池田葆光曰　伊勢久乃山　二ツノハヤダケト云ハ古事ヲ矢ニ
用トテ有名ナリ　矢ハ一根ヲ二本ニ揃ヒテ節モ同様ニ揃ヘテ二
ヨリ矢ニ用ヒテ的ノ笞ノ揃ヲ貴フ　十手ノ内ヲ大ニ賞ス
又　松樽ノ心モ出セル由
手野師香曰　西国ニテハ　寒竹ノ事ヲ　小孟宗ト云フ
同　大和建藤竹ハ籬ノ茶托ニ用ヒ　美ニシテ尚
強ナリト云フ
同　老行竹ノ事ハ　雜史ニ出ツ

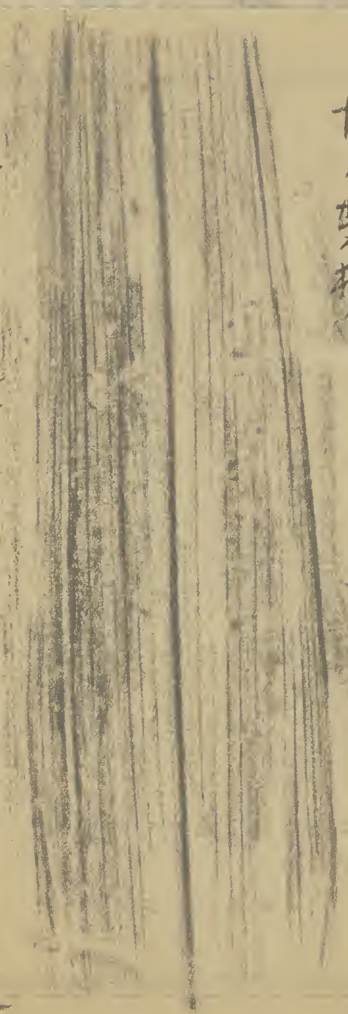
農商務省

東京大学総合図書館

シマヨシタケ

二十年七月六日

採取草稿



Arundo Donax var. versicolor

Striped reed

明治十二年佐野常民君ヨリ栽ニ来ル之ノ繁殖スルナリ

日向竹類分門

一コサンチク　ホテイチク　筍、干筍、杖、釣竿　（自生）

一キンチク　傘骨、火箸、垣根、堤防、嶮崖ニ植ユ　（自生）

一コキンチク　ホウロウチク　ビッチク　垣根トナシ美観アリ（此ハ既ニ記セシ）（栽）

一ダイミヤウチク　物干竿、筍又佳ナリ

一クロチク　種々細工用、杖、　（栽）

一シノメ　シノベ、フシノベ　釣竿

一ナヘタケ

一ゴクタケ

一コムサウ　ゴゼタケ

一スヾタケ

一カンチク　ブンゴザヽ　竿ハ、篭ニ作ル　（自生）

一サヽ　葉大ナルニ団子ヲ包ムニ用ユ　（自生）

一無名

以上十三種 但現品ハ「コキンシケク」ニ掩リ欠ク

○叢生ト蟠生ノ別説
アルトアリ叢生ト云ハ
ビコル」トアルハ即チ蟠
生ヲ指ス者ナラン乎
「コサンケクヒ」ノ如キ今ヲ
蟠生スル如シ
廿二年二月 田節

古叢生、蟠生ノ称ハ
今モ此ノ標準ヲ以テ秘根
新根ヲ生スルモノヲ
ノハ叢生、叢生ト称
スル方可ナラン
○素中○取リ附シ
タルハ通常竹ノ
宇有リ證スナシ也
ハ振リ仮名ヲ従リ

日向国竹類品目効用等調

名称	自生栽培ノ別	高山ニ生スルト里ニ生スルトノ別	叢生ト蟠生トノ別	効用
コサン竹（タケ）	本自生スルモノトスルモヨク移植シテ繁茂ヲ計ルモノナリ	高山ニ生セスシテヨク里山ニ生スルモノナリ	叢生シテ四方ニハビコル	傘柄、釣竿、筍、モガリ墻、イザイザ墻（セハ葉ヲ落シ小枝アル）、マヽ垣トナス、物乾竿、其他ヨク垣ニ用ユ
金（キン）竹（タケ）	右仝	右仝	叢生スルモノニシテ四方ニハビコルヿナシ	防風ノ為メヨク宅地ノ境界ニ植ユ、其他火縄、竹綱、ヅナ
小（コ）金（キン）竹（タケ）	右仝	右仝	右仝	生垣トシテ美観アリ
ダイミヤウ竹（タケ）	右仝	高山里山ニ生セスシテ（右仝）ヨク宅地ニ移植スルモノナリ	叢生スト雖𪜈四方ニハビコリ難シ	簱竿、庭木代用、竹ノ子至テ美味ナリ
黒（クロ）竹（タケ）	高山ニ無クシテヨク里山ニアリ但シ移植シテノ繁殖ヲ計ル	仝上	繁殖シ難クシテヨクカラス	傘柄、上等ノ分ニ用ユ 杖、
○シノメ竹	自生	高山ニ生セス里山ニ生ス	叢生セスシテ四方ニハビコル	釣竿、竹箒、箕ニ用ユ、矢ニ用ユ、
ナヘ竹（タケ）	自生	右仝	叢生シテ四方ニハビコル	箒、物乾竿、其他家根用ニ色々用ルモノナリ
ゴク竹（タケ）	自生	高山ニ生ス	右仝	矢ニ用ユ、箒ニ用ユ
○コモソウ竹	移植シテ繁殖ヲ計ルモノナリ	里山ニ生ス	叢生シテ四方ニハビコル	ヨリ生垣ニ用ユト雖𪜈ハビコリ強ク宜シカラス 竹ノ子最モ美味ナリ
○スヾ竹	自生	高山ニ生ス	叢生セスシテ四方ニハビコル	矢並ニ箒ニ用ユルノミ

竹ノ見本類目録　二十二年四月[illegible]成

摂津有馬産編物製用晒竹即チマダケ

大坂堀田氏ヨリ来ル厚[illegible]マダケ

サビタケ（マダケ）

スヽタケ（マダケ）

サラシタケ（ハチク）

タンババンチク　丹波産

サビノメ名タケ（ハチク）

サビタケ（ハチク）

スヽタケ（ハチク）

カンチク	自生	叢生シテ四方ニハビコル里山ニ生ス	仝上	丸ルキ侭籠ニ用ユ
サヽ竹	自生	里山ニ生ス	叢生シテ四方ニハビコル	五月節句餅包ミノ必要物ナリ当地ニテ他ニ用ナシ
無名	自生	奥山ニ生ス	叢生蟠生ハ稀ナル竹ニ付不明	未タ何等ノ用ヲ為シタルヲ見ス

東京大学総合図書館

モウソウチク　江南竹
仮称 サラサタケ　産地未詳
アベハンチク　駿河産
ヲビハンチク　日向飫肥
ゴマタケ　烏竹ノ類
摂津有馬ノ　ゴマタケ
ニタリ　即チゴマタケノ内
クロタケ　烏竹
ホテイチク ゴサンチク　人面竹
ムチ子　（ホテイチクノ根鞭）

サビタケ　（ホテイチクノ）
ギハンチク　（ホテイチクノ）
キンメイチク　黄金間碧玉竹
淡路洲本シボダケ　（皺竹ノ義）
タウチク　（唐竹ノ義）
ナリヒラダケ　一名和合竹
シカクダケ　四方竹　方竹
カンチク　紫竹
メダケ　本ゴタケ
スヽタケ　（メダケノ）

スヾダケ　信州産

[illegible]トラフダケ　日向

トラフダケ　駿河

ヤダケ　箭竹

シラダケ　（筆軸）ヤダケ

タイミンチク　タイミヨウダケ

カンザンチク　篠

ハコ子ダケ

ホソチク　（ハコ子タケ）

ハコ子ハンチク

タイホウチク　即土用竹　ホウライチク

スワウチク

シヤコタンチク　北海道産

シヤコハンチク

マガリダケ　チンタケ

ヤキバザヽ　三白竹

ブンゴザヽ　又伊豫ザヽ

薩摩金山竹　（カナヤマタケ）

ノシロラヲ　（ハコ子タケ）

コモンラヲ　（ハコ子タケ）

ヒタンラヲ　（ハコ子タケ）

ベッコウラヲ　（ハコ子タケ）

シユラヲ　（ハコ子タケ）

クロチク　（メダケ）

ソメス丶タケ　（メタケ）

ソメス丶タケ　（ハチク）

キハンチク　（ハチク）

支那バイラチク　梅羅竹

支那　大梅羅竹

支那　シヤウヒチク　湘妣竹

支那メハンチク

支那メハンチク

支那オホメハンチク

支那オハンチク

（五列）マダケ　苦竹

伊豆熱海在マタケノ根　苦竹鞭根

陸前松島福浦島　實竹

實竹　同お

伊豆韮山江川氏邸韮山竹　即マダケ

伊豆韮山江川氏邸内韮山竹　即マダケ

東京大学総合図書館

、韮山竹

、韮山竹

、韮戸 モウソウチク

、淡路洲本 シボタケ （皺竹義）

、淡路洲本 シボタケ （縐竹義）

、碧玉間黄金竹 埼玉縣下産 [illegible]

、（黄金間碧玉竹） 二十三年一月 埼玉縣下産

、伊豆熱海産 マダケ 外皮暗色ノモノ

、上総産 マタケ嫩幹 黒黴枯立ノモノ

、摂津有馬産 マタケ嫩幹 漆黒枯立ノモノ

、日向西臼杵郡七折 ゴクタケ

、日向西臼杵郡宮産 斑竹

、巣鴨宮本氏邸 廿七年六月二十二日 佛面竹 ホツメンチク

、角筈村福羽氏邸 二十年六月廿九日 佛面竹 ホツメンチク

、産地名称共未詳 但於東京所得 佛面竹 ホツメンチク

、埼玉縣下産

、ホテイチク 人面竹

、陸前松島福浦島産 実心竹又寶貫竹

、杖傘柄等二用ウ 薩摩 キンチク 土佐 ドヨウダケ

以上八十八点 但、[illegible]

番	名
一イ	、マタケ
一ロ	、サヒタケ（マタケ）
一ハ	、ス、タケ（マタケ）
二イ	、ハチク
二ロ	、サヒタケ（ハチク）
二ハ	、メクロタケ（ハチク）
二ニ	、ス、タケ（ハチク）
二ホ	、ソメス、タケ（ハチク）
二ヘ	、ギハンチク（ハチク）
三イ	、マウソウチク
三ロ	、キッカウチク
四	、マタラタケ
五	、サラサタケ 假称
六	、アベハンチク
七	、オビハンチク
八イ	、コマタケ
八ロ	、ニタリ
八ハ	、クロチク
九イ	、ホテイチク
九ロ	、サヒタケ
九ハ	、ムチゴ
九ニ	、ギハンチク
十	、キビメイチク
十一	、シボチク
十二	、ジッチク
十三	、タウチク
十四	、ナリヒラタケ
十五	、シカクタケ
十六	、カンチク
十七イ	、メタケ
十七ロ	、ス、タケ
十八イ	、トラフタケ 日向
十八ロ	、トラフタケ 駿河
十九イ	、ヤタケ
十九ロ	、シラタケ（ヤタケ）フヂザク
二十	、タイミンチク

廿[illegible]日録[illegible]松[illegible]家所[illegible]明治[illegible]

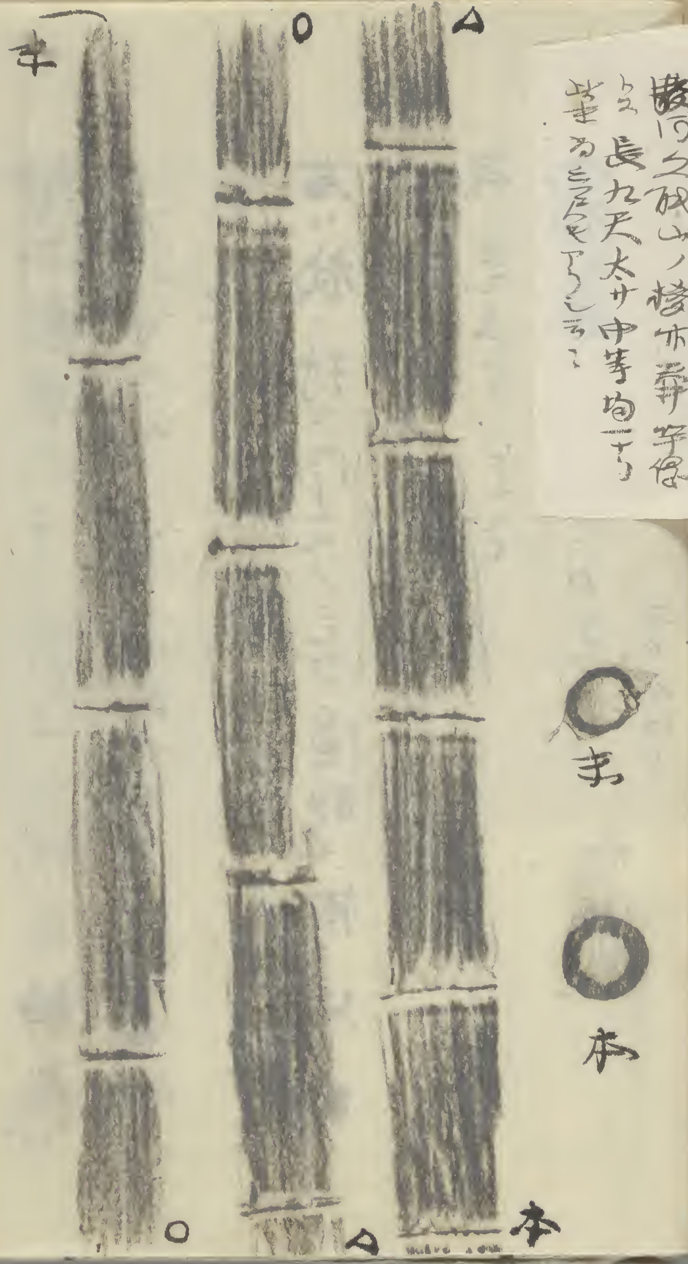
廿二	廿二イ	廿二ロ	廿二ハ	廿二ニ	廿二ホ	廿二ヘ	廿二ト	廿二チ	廿二リ	廿二ヌ	廿二ル
、カンサンチク	、ハコネタケ	、ハコネハンチク	、ノシロラウ	、コモジラウ	、シタンラウ	、ヘツカラウ	、シユラウ	フテヂク	カネヂク（ハネステヂク）	、クロネヂク（クロネデチク）	チヤヂク（チヤフデヂク）
廿三	廿四	廿五イ	廿五ロ	廿六	廿七	廿八	廿九		一	二	三
、ホウライチク	、スワウチク	、シヤコタンチク	、シヤコハンチク	、ネマガリタケ	、ヤキバサ、	、スズタケ	、ブンゴザ、	参考用 支那産	、バイラチク 梅羅竹	、タイバイ 大梅羅竹	、シヤウヒチク 湘妃竹
									四イ	四ロ	五
									、メハンチク	、メハンチク	、オホメハンチク

□義歎曰 竹ハ善ク土ヲ好ミ 擇テ土中ニ入
ル竹忽チ手ニ之ス 又肥料ヲ宜シ 施肥ハ是ニ及ス
崩ノ竹 葉傷ヒ枯レ
二十年七月十三日

明治五年十二月 河内国□□氏ノ巡廻帰リニ聞ク
一 佐渡 竹藪アリ 佐渡ノ□何アルヤ検セス
一 越後ノ 孟宗竹 苦竹 淡竹 アリ 藩政ノ際ノ竹林アルタ
竹ヲ以テ 矢竹 弓竹 之アリ 是亦藩ノ選物タリ

小野□ 翻出 八十五号
竹林 一

東京大学総合図書館



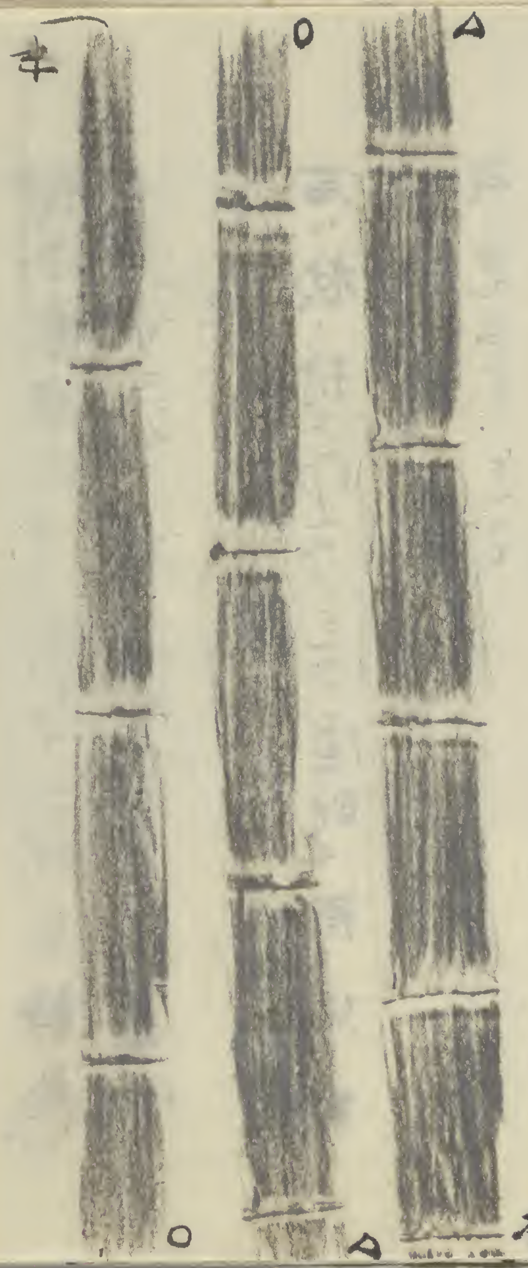
廿三年十二月十七日
[illegible]先生方ヘ
田中ニ[illegible]作
ノ様ヲ曰
盆栽作ノ一方ハ撓メテ[illegible]
八寸又ハ尺ニ曲ゲ又[illegible]
一尺ヨリ出シ又曲ゲ図ニ示ス
ノ形ヲナスナリ
此印東
チリトラ[illegible]

[illegible]君ノ[illegible]
[illegible]久成山ノ[illegible]
[illegible]長九尺太サ中等[illegible]
[illegible]

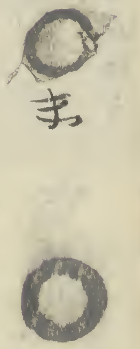
久成君曰 竹ノ油抜ハ寒ニ火ニ焙リテ
ヲ常トス山氏 然ルニ油ヲ焼テ決ニ拭ヘハ
[illegible]油ニ和シテ出テ[illegible]
油ヲ[illegible]油ヲ[illegible]ノ説ナリト[illegible]
[illegible]
[illegible]
二十年六月[illegible]

田芳

筍
ハチク
マダケ
一尺[illegible]
一二尺
十二年六月[illegible]
[illegible]



西湖蘆



末

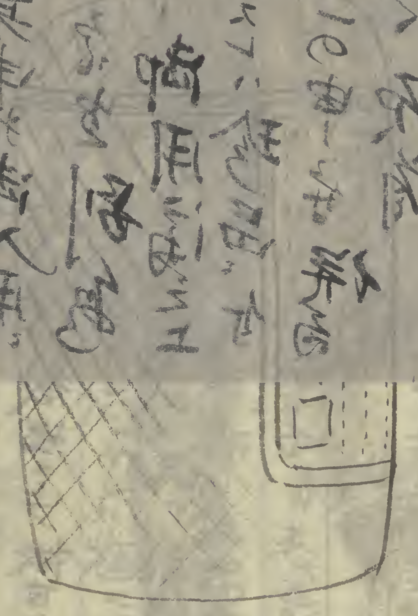
本

廿年十二月廿七日
於安順生道方ヘ到
田中之助由布学作
ノ物ヲ見テ曰
孟宗竹ノ一方ヨリ擇ミテ
ハ其丈ノ方ヘ曲ミ又他ノ
一方ヨリ其上ハ又曲ヘ居テ見
ノ形ヲナスナリ

久成君曰 竹ノ油抜ハ寧ロ火ニ焙リテ
布ニテ常ニ拭フ氏 焙油ヲ磨ヲテ決ニ燈ヘ片ノ
煙ニ燻シ油ニ和シテ煮テ、縛ニ油ヲ拭フ
油ヲ拭テ油ヲ引ク其ノ段ナリト 時既ニ
既ニ工合成ルコト 殊ニ細ク白ク縁ヲ
洗ヒ通ス
二十年六月六日

田芳

筍 ハチク
マダケ
一丈位
一二尺
六二年六月十三
寅西之ス



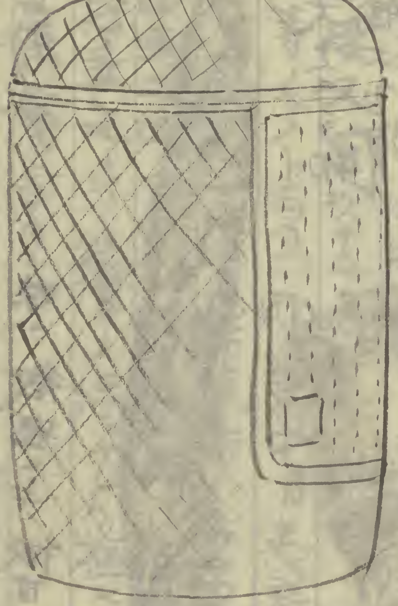
竹ニテ包合ス

村上要信氏ヨリ示サル、西湖芦幹長サ二尺六寸三分　節十四個　太サ五分五厘
是十夕ハト
太ハ杖ノ材ニ供スノミニテ質脆ク堅サ強ニ劣
皮淡黄白色ニ光沢アリ
採ヨリ久シケレハ之
明治三十年七月十七
皆返却ス
田井記

鉾落島日御沽ヵ上候清國産
西湖ノ蘆入御覧申候御入用ニ
候得者献上仕度思召別紙
御入用無之候ハヽ御用済之上
此色御戻被遊左スレハ珍品ニ付之堅ク張之勘
如生保存ニ至キ一の由ニ承候而
奉得貴意ニ候頓首
明治廿年七月廿七日　村上拝
田中様
貴下

湖声静長サ
サ五寸五尺
田中芳記

台湾國ハ福州ヨリ産ス　一籠約壱斤ヲ包含ス
價六十四仙
茶ヲ籠ニ入レ塩ヲ振リ
懸ケ蓋ヲシテ押石
ヲ上ケ水分ヲ抜キ
太陽ニ乾カスト聞ク
此通直ニ然ナ否ハ
未タ経見セサレハ保シ
難シ



以上ハ品川氏イ示サル罵解ノ品ニ

今現物ヲ見ルニ塩气乙ヒ多カラズ 形ハ手扁ナルハ壓搾スルニ由ヒリ

色ハ淡黄緑ニシテ表ニ白粉ヲ取ス 味ハ微塩ニシテ微甘ナルハ之

ヲ調理セハ

必ス佳ナラン

又格別ニ

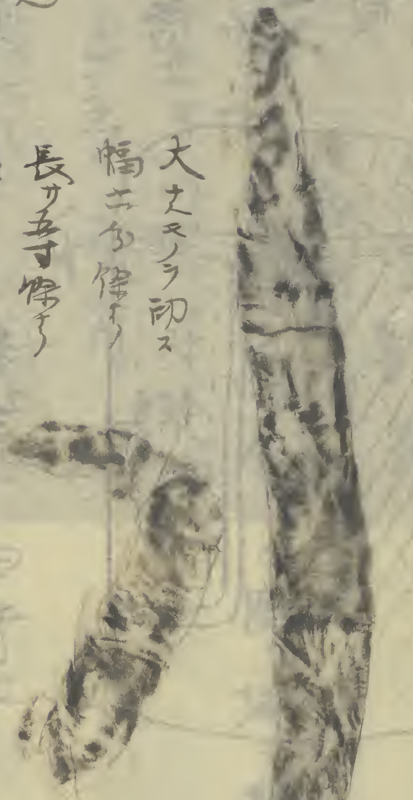
聞キナラン

且篠ハ雑選

セシオテ搾壓ス之

ニヨリ形ハ屈曲セル

モノ多シナリ



芦筍

十九年七月廿四日 田井記

蘆ノ筍ヲ塩干スルモノ清国ヨリ来ルハ曾テ見

タルコアリ 本居又聞クナシ 然ルニ今陽氏ヨリ贈

ラレタリ 是ハ上等モノトテ本年四月長崎

産ノ物ノ筍ヲ取リ陽氏之ヲ撰送シテ 寄贈セリ

本年織田進之氏下総ノ沼田ニ於テ試製セシ

モノナリ於テ採集スルハ籜ノ緑ニナルハ塩之浸メ

セスシテノ筍ハ醸製スルアリシ

本月品川志道氏示サセタルモノハ新鮮ノ如ク

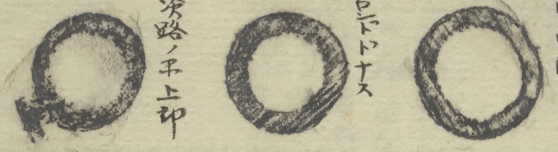
見エシ所ノ筍ノ果テラト 夫ハ籜ヲ去タル筍ヲ塩

一　蘆ノ筍

下総東葛飾郡ニテ産ス 海
濱ニ蒼々生ス 蘆芽ト云 塩漬
ニテ食ス 臨時 塩鰯ニ云ス
和名抄ニ云ク
支那ニテ蘆筍ト称ス 野生ス

呂川氏曰
甚佳なる
福建より
産出ス

蕨ハ一人ニシテ形ハ一様ナラス又勝手ニ結ヒ又人モノ
ユハ指屈ヲ捏テ使ナラ甚タ不体裁ノ形ナリ 回氏
曰是ハ年々ノ事 製スルニ縛ナキリ塩ヲ捏ヒ結ニ…
人ノ…気ニテ至ル夫レハ指ヲ…
然ルニ下ケノ代ニテ手経ナレハ水ヲ得テ大ニ脱膨シ
…草ニ比スレハ反対ニテ善ナリ 之ヲ含ミ濃ニ塩気
…味アリ而シテ剛ナ… 是ナラハ水ニ豆ノ差ニ一ニ
華ノ新… 今此大サノ品テ計ハ人ニ無ノ甚盧…
ナシテ 蕨革紗（ヨミヌケ又ダタキ）… 是ナラハ 中
国…四国九州等ノ海ニ自生多シ…



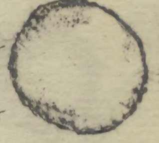
楽器舌

廿年十月六日　田中芳男記

官報第百七十二号兵事ノ部陸軍省報告ニ曰ク
教導団軍楽隊使用ノ各種楽器舌（品質葦）ハ従
来外国品ヲ使用シ来リシカ先般兵庫県淡路国ニ於テ
同質ノ葦ヲ発見セシニ依リ製作ノ上大ニ試験セシニ毫
モ外国品ニ劣ラザルニ付向後右品ヲ使用スル筈ナリ
該舌用ノ品ヲ本邦ニテ求メル話ハ客年中山林局山下常名
氏ヨリ見本ヲ示シ本邦ニ有無ヲ問ハレシコトアリ余々尋常
篳篥用ノモノハ蘆ノ一種鵜殿ノ蘆ト云フモノニシテ他邦
ニモ産スルコトハ博物雑誌ニモ載セテアリ然シ尺一寸許ナルハ（外国産ハ）所謂
作用ハナシマシク葭竹（ヨシタケ）ナラバ間ニ合フベキヤノ答ヲ為セリ其後博物
局ニ植ヘ所ノ西洋葭葦竹羅甸名アロンドドナスナル者ノ
甚似タルヲ以テ是ナラバ必ズ間ニ合フベキコトヲ知リ山下氏ニ渡スモ

東京大学総合図書館

日向下部



但シ節ノ所

△又曰該地ニテ切ハ卅
ノ早カリシヤ知ラシク
繊維ヲ生セリ因テ該地
ノ戸長ニ托シ毎月切
リ取リ試ミシニ
タリトノ事ナリ

十七年十一月三十日
アランドドナクス一本
試験ノ為メ山下ヘ（送）
浜儀ニ出ス

撿任者 陸軍教導團課僚 砲兵中尉 平岩親徳氏 目
今撰挙ノ為メ出張留守ナリトノ答アリシガ今官報ニ載ス
ル所ヲ見レハ山下氏ニ尋ヌヘシ 淡路産ヲ持来リ我且ノ沢ヲ
ヲ聞ケ 其且本ノ分配ヲ受ケタリ 且曰ク 共西ハ淡路津名
郡ノ上灘村海岸ノ産ニシテ 該地海岸ニ寄生シ人脚ヲ入
ルベカラザル程ニアリ 又海中岩上ヱ生シ又アリテ海濱ノ土砂
ヲ擁護スルモノハ由土地ニテハ薪ニ用ユルモ 彼方アレキユヘ格別
ノ用ナリ 唯冬月ノ暴風ヲ防ク垣ニ用ヒ又葉ノ掘扈キニ
ヨリ 角香（竹スキ）ヲ包ムニ用ユ 住ナリ 其長サ一丈以上ニ
至ル トス△ 其携帯スル具ハ二太サ直経九分 節ノ間 五寸許
トシ 小之方ハ小指ノ太サアリテ 其異即チ薮茅ヲ（ミニスケ ダンチク一名 タチク）
其 南海ニ濱スル地方ニ自生ス 房州ヨリ九州地ニハ多シ 駿河ニモアリ
薩摩ノ者ハ細ク大隅ノ者ハ太シ 土地ニヨリ細大アレハ 肥瘠ニヨルモノカ

南地トテモ太キヲモ生ス 大島ノ者ハ細シトテ

箏篳舌ノ声

篳ノ舌ニ用ユ 鵜殿ノ葦 トミハ 山城ノ鵜殿ト云ケ村
ノ名産之ハ 古人ノ知ル所ニシテ 此葦ノ名ナシ 旧幕
ノ頃ハ此村ハ 葦ノ外作ル事ナク 法アリ 其代ニ
葦ヲ作リ 切リ 妙ヲ至ルノ 理所アリ 凡五十年毎ニ
好ヘ 及ヘノニ 世ハ 忽チ 重ニナラテ 用ユナキ故ニ 略
古キヲ出シテ 葦ヘニ 費シ 殊ニ 葦寒ノ時用ユモ
勤メシト 然ルニ 維新ヨリ 旧法モ 攫ヲ 純ニシテ
今ハ 時ヲ 去ノ 古ヲ 作ル 事 ナク シ ニ至レリ トコフ 又近
年 軍楽隊ニ 用ヘ 篳ノ舌ハ 太サ八九分ノモノニテ

陸奥之ヲ踏ミシヨリ甚ダ狭小ナル船舶ニテ薬草等
ノ採取ニ従事シテ新奇ナル品ヲ得ル少カラス由テ自ラ乾燥
セシメ之ヲ三十余品ヲ選ヒ学名ヲ識シテ以テ参考
近日附録ノ附属ニ供ス町田久成君ノ活ナリ
為ニ去月中旬町田久成君ニ商議ス
十八年十月二十日識　田中芳男記

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館